### Company of the Co		in	試験		1	品質管理基準及び規格値			試験成績
Company Comp	エ 種	種別	区分	試験項目 アルカリシリカ反広抑制対策	試験方法	規格値	試験基準 骨材試験を行う場合は 丁事開始前 丁事中1回/	摘要	表等によ る確認
### 1	ト(転圧コンクリート・コ ンクリートダム・覆エコン クリート・吹付けコンク			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	について」(平成14年7月 31日付け国官技第112	0.000	6ヶ月以上及び密地が変わった場合。		0
### 1997 1997 1997 1997 1997 1997 1997 1			2-	骨材のなるい分け試験	TIS A 1102	静井団津に下る	丁惠開始前 丁惠由1回/日以上及78姿物が変わっ		
### 12 19 19 19 19 19 19 19			他まる。	田村 ウシウドウバー 戸瀬	JIS A 5005 TIS A 5011-1~5	本の はいまい よう	上手物味用、上手十1四/月以上及び生地小変がつ た場合。		0
### 1997 (1997 日本 1997 日本 1			表示されたレディーミク	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5	細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下 (砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケル スラグ細骨材、脚スラグ細骨材の規格値について	正事開始前、工事中1回/月以上及び感地が変わっ た場合。	及び時砂) IIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材一第1部: 高炉スラグ骨材) IIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材一第2部: フェロニッケルスラグ骨材) IIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材一第3部: 網スラグ骨材) IIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材一第3部:	0
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##			トコンクリートを使用	租舎材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	砂利 35%以下 舗装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は	た場合。 ただし、 砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月以上及	石炭ガス化スラグ骨材) TIS A 5021 (コンクリート用	
### 1 1-10 1-10 1-10 1-10 1-10 1-10 1-10			る場合は除	骨材の徴粒分量試験	JIS A 5005	砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が58% 以上の場合け5.0%以下)	た場合。		
13 + 100 10 + 10						細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける			0
中部中央地上海電の戸職				砂の有機不純物試験	JIS A 1105	個弾色より深いこと。濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。	工事得額額、工事中1回/年以上及び変地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む個骨材のために確強度による試験方法」による。	0
□				モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色成 の色より濃い場合。		0
				骨材中の粘土塊盤の試験	JIS A 1137	細脊材: 1.032/下 批脊材: 0.2353/下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
IS R 2011 (東中ウン) IS R 2010 (エカワ・) IS R 2010 (エカワ・) IS R 2011							工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わっ	場所地で雑誌のおそれのある地点に適用する。	0
1518 R 2012 (1870 Pt 2) 1518 R 2012 (187				セメントの物理試験		JIS R 5211 (高炉セパント) JIS R 5212 (シリカセパント) IIS R 5213 (フライアッシュセパント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
						JIS R 521 (橋野セル) JIS R 521 (本野セル) JIS R 521 (プイケッセル) JIS R 5214 (コセル)			0
#議任本の水質試験									0
以下						JIS R 5214 (±=t#/+)			
JIS A 5306附属歌で セメントの延延時期の恋: 始発は30分以内、終結 た場合。 は200分以内 は 200分以内				omルで水の水質試験	止水道水及び上水道水以外の水の場合。 水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、終結 は60分以内	、上季時期限、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	北京通を使用している場合は試験に携え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	
(次頁に統く)	(次頁に続く)				回収水の場合: JIS A 5308附属書C	セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結 は60分以内	た場合.	その原木は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0

					品質管理基準及び規格値 		Τ	試験成績
エ種	別別	試験 区分	試験項目 計量設備の計量精度	試験方法	規格値 水:±1%以内	試験基準 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	摘 要 レディーミクストコンクリートの場合、印字記録によ	表等による確認
1 セメント・コンクリー ト体圧コンクリート・コ ンクリートゲム・腰エコン クリートを除く)	製造 (プラント)	での他 丁ISマーク表示された	計画収制シ計画特定		京・コール・コル以内 春秋: 土から以内 春秋: 土から以内 成和村: 土から以内 成和村: 土から以内 瀬和村: 土から以内 成和村: 土から以内	上李朝初前、上李中1世/6ヶ月以上	レディーシグストコンクリートU場合、印子北京により権威を行う。	0
		レディーミクストコンクリートを使用する場合は	ミキサの検提で性能以映	・タデミキラの場合: ISI & 1119 ISI & 8603-1 ISI & 8603-2	コンクリー・いき報じ量 お客意の場合: コンクリート内のモルタル量の幅差率: 0.8%以下 コンクリート内の服件材度の偏差率: 5%以下 コンクリート内の服件材度の偏差率: 1.5%以下 コンクリート内型気量の構差率: 1.0%以下 コンクリート内型気量の構差率: 1.15%以下 コンクソステンシー (スランプ) の偏差率: 1.15%	工事開始前及び工事中 1 回/平以上。	・小規正・開除では工業は ウク酸性用品が5%・資助の 場合は工工機皿はとの開発。またレンデー・ラック、コンクリート工場の品質説明書等のみとすることがで まつん リート工場の品質説明書等のみとすることがで 水小規度工種とは、以下の工程を除く工能とする。 (橋含、橋明、松照、海開等)、美型工「係され取以 上部工「所、採収、高開等」、美型工「係され取以 上部工「所、技収、高開、機管、水平、水脈(外線20)。 には、1年以上の工程と終しては、大路に対した。 には、1年以上の工程と終しては、大路に対した。 には、1年以上の工程とが発出した。 は、1年以上の工程というでは、1年以上の工程とは、1年以上の工程とは、1年以上の工程というでは、1年には、1年には、1年には、1年には、1年には、1年には、1年には、1年に	
		除 < >)		連続ミキサの場合: 土木学会規律JSCE-1 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差: 0.8% コンクリート中の単位配費付量の差: 5%以下 コンクリート中の単位配費付量の差: 5%以下 圧縮硬差: 7.5%以下 空気差差: 1%以下 スランブ差: 3cm以下	工事開始前及び工事中 1 回/年以上。		0
			総件材の表面水率試験	JIS A 1111	収計図書による	29/ B CL E	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用す 5。	0
			租骨材の表面水率試験	JIS A 1125		194/6以上		0
	施工	必須	塩化物経量規制	コンクリー・の耐久性向上」仕様書		コンクリートの打扱が中部と下後にまたから場合 は、午前に1回コンタリート打砂機に行い、その 対数検算系が組化物を織の原始的ロッピス下の場合 は、中後の必要を得合することができる。(1 対 機が過光的機は近面とする)実験の相差は近面の関 定載の平均値	・小坂原工様や「1.1億年りの設使用意が89本書の 場合は工種間に見たの景像。またビドディーを2クメ コンカリート工場の品質度明書等のみとすることがで まる。1.12億年からの総使用意が800以上の場合は、 1800にとに間の影像を行う。 からなどに間の影像を行うには、「痛診の吸化物・ボークを育事実施力」(「第40の配別との形分と たは設け図書の限定により行う。 用心が振写をさない無筋疾患物の場合は名略でき たは設け図書の限定により行う。 用心が振写をなない無筋疾患物の場合は名略でき が、現底工機とは、以下の工権を除く工程とする。 (係合、機即、投類(場所打核、非筋基等等)、機能 と加工(係、技能、高層等)、機能(後行と に加工(係、技能、高層等)、機能(成 1)、関係、公民で第、ドライ、水路(作程と Gu) 1)、関係、公民で第、ドライ、水路(作程と Gu) は、原介、3.1億以 69年、大門、水路(作程と Gu) は、原介、3.1億以 69年、大門、水路(作品) は、原介、3.1億以 69年、大門、水路(作品) は、日本のよりに対している。 は、日本のよりに	
(次ページに続く)			平位 水量测定	「レディーミクストコンタ リー・単位へ素が近く例 (第) (平成16年3月8日事務	1) 新定した単位水量が、配合設計と は地域が心範囲にある場合社での主要地工してよ い。 2) 前定した単位水量が、配合設計と は地域を超光之地域ともの範囲にある場合は、水量 に、やの運搬を加速してが設定を有能 に、単位を基本としては完全して、企業を、 の設計には、単位と乗っては代するとで、運搬機のお台 がは、11846年以内で変化するまで、運搬機のお台 がは、11846年以内で変化するまで、運搬機のお台 の設計と11846年以内で変化するまで、とは、空間連 地域には、単位と対して1846年以内で変化するまで、 2) 配合数計と3046年の制度を超れると場合は、生 2) を引きまでは、一般である。 10年の大量の機能を対しては、 は10年の大量の機能を対しては、 は10年の大量の機能を対しては、 は10年の大量の機能を対しては、 は10年の大量の機能を対しては、 数を必要した場合は、 数を必要した場合は、 数を必要した場合は、 数を必要した場合は、 数を必要した場合は、 ののである。 10年の大量の機能を対しています。 数を必要した場合は、 10年の大量の機能を対しています。 数を必要した場合は、 10年の大量の機能を対しています。 10年の大量の機能を対しためます。 10年の大量の機能を対しています。 10年の大量の体的を対しています。 10年のの体的を対しています。 10年のの体的を対しています。 10年のの体的を対しています。 10年のの体的を対しています。 10年のの体的を対していまする	190m/「以北上明台: /日 仁中间の、作板1回)以上、重要構造物の場合は重要模式がして、100m ² -150m ² ごとに1回。及 で増加している。 定型ではないでありられたときとし、別 定回数は多い方を使用する。	20mm~25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³	

	1	1	I	1	品質管理基準及び規格値	T	T	
エ種	種別	試験 区分	試験項目 スランプ試験	試験方法 JIS A 1101	規格値	試験基準 - 荷钼し時	摘要	試験成績 表等によ る確認
1 セメト・コンクリー ・「低圧ロングリート・コ ングリートが入り表ゴン ソリートが介けコンク リートを飲く)	施工	必須	Aフンノ中級	JIS A 1101	スランプを以上Stea 本書: 背容差±1.5ca スランプを以上Stea 以下: 背容差±2.5ca スランプ2。10ca : 非容差±1.0ca	1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ	・小坂原工権会で1工権当りの総使用量が50%・清海の 時合は1工権国に20の発験。またレドディーミクスト コンタリート工場の高面質別書等のみとすることがで 50。"1工権国を50の総使用量が50%上の場合は、 50。"ことに回の影響を行う。 1、第二人は、以下の工権を除く工種とする。 (場合、機期、松類(排布打核、井郷基高等)、機能 上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	旧の対験結果は指定した呼び強度の%%以上であること。 あること、 通知の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上 であること。 「国のが実験結果は、3個の供収体の攻験値の平均 他)	- 背加し時 同/日以上、株造物の重要度と工事の規模に応じ 「2006~1506~25 にに同な 3. アストピースは打散場所で採取し、1回につき (4. ですっ張。05~30回。05~30 ここのは、05~30。05~30回。05~30 ここのは、05~30回。05~30回。05 ここのは、05回につきる場(の3)を追加で採取する。		
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (青春遊)	- 荷加し時 1回/日以上、株造物の重要度と工事の規模に応じ で200m [*] ~150m [*] ごとに1回、及び勢和し時に品質変化 が認められた時。		
			コンクリートの曲げ強度試験 (コンクリート舗装の場合、 必須)	JIS A 1106	国の高្យ解析集社指定した甲び強度の85%以上であること。 金二と、 場合の対象結集の平均値は、指定した甲び強度以上 であること。	邦政日は亡の之間(年前・午前)の第りで行 う。たがテントと一本は打破場所で採取し、1回に つき原則として3億とする。		
		その他	コアによる強度試験 コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1117	収計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
	施	W.	ひび割れ調査	スケールによる測定	O. Zmn	本教	高さが、56以上の教師コンクリート確壁、内空断面積	
	施工後試験	须				総延及 最大ひび割れ幅等	※25年以上の意能コンクリートカルバート類、観定 上、下面工及び店が3年以上のでもプレキャスト製品及 びアレストレストコンクリートは対象としない)と 構造物像体の意態や他の構造物との接触面を除く全数 自たするがについました。 を表現したがある。 では、100円を表現したが、100円の が200円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の では、100円の である。 では、100円の である。 である。 である。 では、100円の である。 である。 である。 では、100円の である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	
			アストハンマーによる強度権 定調査	JSCE-G 504-2013	应計畫等強度	ブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所 の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計 基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設	高さが、5m以上の姿勢コンクリート接近、介空所面 情が25m以上の鉄管コンクリートカルバート類、 境上・下部工及で高さが3m以上の類・水門・銀門を 対象、(ただしい行れの工種についてもプレキャス・ 製品。及びアシストレストニングリートは対象としな。 からないがあった。 大人は1分での大型の記律が現である。 を下回った場合は、コアによる発度試験を行う。 工事等により、実際関門がに調査を行えない場合は整 管員と協議するものとする。	
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度	所定の推廣を得られない鑑明付近において、原位 間のコアを輸収。	コア核取位置、供媒体の技さ取り寸法等の決定に関しては、設置された数値を情報させないよう十分を動計 住宅を表現して、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	
			配筋状態及びかぶり	非故様以験によるコケー時 造物中の配筋状態及びかぶり 関注受領・解唆」による	兩左	兩左	詞左	
			強度測定	「微紋線・非線線試験による- ン列-計構造物の強度測定要額・ 解設」による	网友	网友	阿左	

	種	試験			品質管理基準及び規格値			試験成績
エ 種 2 プレキャストコンク	別材	区分	試験項目 JISマークの確認又は「その	試験方法 目視	規格値	試験基準	摘要	表等によ る確認
リート製品 (JIS 1類)	料	31	他」の試験項目の確認	(写真撮影)				
	施工	必須	製品の外観検査(角欠け・ひ び割れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと	全敦		
3 プレキャストコンク リート製品 (JIS Ⅱ類)	材料	必須	製品検査結果 (寸法・形状・ 外観、性能試験) ※協議をした項目	JIS A 5363 JIS A 5371 JIS A 5372 JIS A 5373	設計図書による。	製造工場の検査ロット毎		0
			JISマークの確認又は「その他」の試験項目の確認	目視 (写真撮影)	設計図書による。			
	施工	必須	製品の外観検査(角欠け・ひ び割れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび納れの無いこと	全教		
4 プレキャストコンクリー ト製品 (その他)	材料	必須	セメントのアルカリシリカ反 応抑制対策	アルカリ骨材反応抑制対策に ついて(平成14年7月31日 日付け国管技第112号、 港関第35号、国空建第78 号)	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成1 4年7月31日付け国官技第112号、国港第3 5号、国空建第78号)」	1回/6ヶ月以上及び癌地が変わった場合。		0
			コンクリートの塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向 上」仕様書	原則0.3%g/n3以下	1回/月以上 (塩化物量の多い砂の場合1回以上/週)		0
			コンクリートのスランプ試験/ スランプフロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	製造工場の管理基準	1個/日以上		0
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の呼解結果は指定した呼び強度の853以上であること。 3回の呼解結果の平均値は、指定した呼び強度以上 であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均 値)	1回/日以上		0
			コンクリートの空気量測定 (凍害を受ける恐れのあるコ ンクリート製品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5% (幹容差)	1回/日以上		0
	材料	その他 丁IS	骨材のふるい分け試験(粒 度・粗粒率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1∼5 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び座地が変わった場合。		0
		マークの表示されたレデ	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び癌地が変わった場合。	JIS A 5005 (鈴砂及び砕石) JIS A 501-1 (高炉以下骨材) JIS A 5011-2 (エッカリア骨材) JIS A 501-2 (エッカリア骨材) JIS A 501-3 (親リアリア骨材) JIS A 501-3 (親リアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリアリア	0
		イーミクストコンク	租骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308	1四/年以上及び癌地が変わった場合。		0
		リートを使用する場合は	管材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	相背材飾名 3.0%以下 (ただし、松彫何定実績学ぶ6%が以上の場合は5.0%以下) スク報前者 3.0%以下 (以下) 海洋 (水が)に以下 (場下) 網幹付から (の以下) (たたし、中) つり作用を さける場合は5.0%以下 (たたし、中) つり作用 を受ける場合は5.0%以下 (ただし、オリッ・リ作用 を受ける場合は5.0%以下 (ただし、オリッ・リ作用 を用いている。 (のが以下)	工事開始前、工事中1回/月以上及び密地が変わった場合。 (山巻の場合は、工事中1回/選以上)		0
		(A)	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より扱いこと。濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。	1回/年以上及び産地が変わった場合。	●・場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材の モルタル圧縮強度による試験方法」による。	0
				JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.2%以下	1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			磁酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材: 105以下 租骨材: 125以下	受、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 すった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わっ た場合。		0

			ı	ı	品質管理基準及び規格値 			試験成績
エ 種 4 プレキャストコンクリー	利材	試験 区分 合そ	試験項目 セメントの物理試験	試験方法 JIS R 5201	規格値 JIS R 5210 (ボルトランドセメント)	試験基準 1回/月以上	摘要	試験成績 表等によ る確認
** 製品 (その他) ************************************	***************************************	ての他 丁ISマーク	セメントの化学分析	JIS R 5202	JIS & S211 (高原セルト) JIS & S212 (7年セルト) JIS & S212 (7年セルト) JIS R S214 (ニュセルト) JIS R S214 (ニュセルト)	180 73 0.4.		0
		の表示されたレデ			JIS R 521 (橋野やかり) JIS R 521 (特計かり) JIS R 521 (デオケッセかり) JIS R 5213 (プライケッシェサルり) JIS R 5214 (エコセルり)			0
		イーミクストコンク	コンクリート用混和材・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS A 6201(アライアッシュ) JIS A 6202(歴報村) JIS A 6204(化学課和別 JIS A 6206(成学課和別 JIS A 6206(ステンダ微粉末) JIS A 6207(シリカフューム)	超月以比 ただし、JIS A 6204(化学混和剤)は1回/6ヶ月 以上	刺験成績炎による。	0
		/ リートを使用する場	練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5308附属書C	総義物質の他: 2g-1以下 部解性原発質物の他: 1g-1以下 個化的イン版: 2800pm以下 セメントの極結時間の差: 新発は30分以内、終結 は80分以内 モルタルの圧縮強度比: 材輸7及び28日で90%以上	1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用 してることを示す資料による構態を行う。	0
		必須	applit	JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3137 JIS G 3137 JIS G 3521 JIS G 3521 JIS G 3536 JIS G 3536 JIS G 3536 JIS G 3536 JIS G 3551 JIS G 3551 JIS G 5502	IJS G 3100 IJS G 3100 IJS G 3112 JJS G 3117 JJS G 3137 JJS G 3137 JJS G 3566 JJS G 3566 JJS G 3582 JJS G 3582 JJS G 3588 JJS G 3588 JJS G 4582 JJS G 4582 JJS G 4582	180/月又は入荷の都改	灰製吹顔 表による。	0
	施工	必須	製品の外観検査(角欠け・ひひ割れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと	全數		
5 ガス圧接	施工前試験	必須	外報検査	日世 世極面の研修状況 患れ下がり 焼き割れ 等。等による計劃 が開発を検索 動化の原体 力。立くらみの表 上を認めのです。 が対け が 等 が が が が に り が に り が に り の の の の の の の の の の み ら の み ら み り る り る り る り る り る り る り る り る り る り	期間押途記号の場合 (地本の場合が整形 (係の異なる場合は細・方の鉄筋) の1/5以下、 の大阪的 01/5以下、 成立へらみは発酵を (係の異なる場合は細・方の鉄筋) の1/6以下、 成立へらみは発起しただし、周方又はいずれか一次からからからからからからが発露性 (低が終める場合は、相い方の鉄筋) の1.1億以上、ただし、両方又はいてれる一方の鉄筋の90の場合は、ただし、両方又はいてなると場合は、織い方の鉄筋) の1.1億以上、ただし、両方以下はの大阪筋を場合は、一部人に、一部人に、一部人に、一部人に、一部人に、一部人に、一部人に、一部人に	(高野ノーカー、圧破作業)は、政務信仰に自動がスト に接続情合は各本、参助が工程級が影響特技が ス圧接の場合は各3本のモデル供談体を作成し実施 する。	・サアル保保いの作成は、実際の作業と同一条件: 16 本料を行う。 26世紀の本機の影響について手動が、上接、熱間押肢がス圧接を行う場合、監管員と協議の 1. 施工的試験を各階がこととができる。 5. 他のできる。 5. 他のでき	
	***		外觀檢查	• 目视	②ふくかえぞ押款かた後の圧接面に対応する位置 の発は、ヘニンがは ②ふくらみの長さが発新器の1.倍以上、ただし、 ③水があるが発新器の1.倍以上、ただし、 ③球が最高にオーバーヒートによる美面不整が あってはならない。 ③その他有害と認められる欠陥があってはならない。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・目間は全販実施する。	熱期押技法以外の場合	
	施工役試験	必須	77000000	接接面の研修状況 動札下がり 動札下がり 参等 等等による計画 等等等による計画 を発展を必要な かくらみ かくらみ かくらみ かくらみ がも進むのです。 等等 が、 が、 を が、 等等 を 等等 を 等等 等等 等等 等等 等等 等等 等等 等等 等等 等等	□輸上の機合に機能器 怪が異なる場合は細、方 受験的 の1/48以上の 心かくら入は装飾器 怪形球なる場合は細、方 のからからは装飾器 (形が成とる場合は細、方の あり、前がない場合は、1部以上、2をし、する場合は は、方の表的、1/48以上、2をし、東方又は、 では、方の表的、1/48以上、2をし、東方又は、 では、方の表的、1/48以上、2をし、東方又は、 なっくなみの混とに接続のですねら数形態 (後が 異なる場合は、細、力の使的、の1/48以下、 の1/48以下が、1/48以下、 の1/48以下が、1/48以下、 の1/48以下、 の1/48以下、 の1/48以下、 の1/48以下、 の1/48以下、 の1/48以下、 の2をし、 の2をし、 の2をし、 の3をし、 の4をし、 の3をし、 の4をし の4をし、 の4をし の4をし の4をし の4をし の4をし の4をし の4をし の4をし の4をし	・特に必要と認められたものに対してのみ្算器外 観検金を行う。	・環体値を外れた場合は以下による、いずれの場合も 監督表の実施をもらっとし、製度はお解検を及び 耐音波は解検を行う。 のは、圧接値の切り取って再圧接する。 ・②のは、円が動し、圧力を加えて所定のかくらみに ・②のは、圧搾動し、圧力を加えて所定のかくらみに ・③は、圧搾動して修正する。 ・③は、圧搾動とで修正する。 ・⑥は、圧搾動を切り取って再圧接する。	
			外板檢查	・目接面の研修 技足 ・目接面の研修 ・技え ・サイス等による ・サイス等によ	無照押弦法の場合 ①ふくりみぞ押弦かた後の圧接面に対応する位置 の添くりみの押さが終節経の1.1倍以上。ただし、 20かくかの理さが終節経の1.1倍以上。ただし、 30款的配合付は「2所に上。 30款前を施にオーバーヒートによる美面不整が あってはならない。 分その他有番と認められる欠陥があってはならない。	 ・目間注金数支施する。 ・特に必要支援がられたものに対してのみ評価外額除金を行う。 	熱照押扱法の場合 ・規格値を外れた場合は以下による。いずれの場合も 感音員の承諾を得る。 ・①②②は、再加熱、再加圧、押抜きを行って修正 、修正後外製度を行う。 ・③は、再加熱して修正し、修正後外製度並を行う。	
			超音波探傷検査	JIS Z 3062	・各検査ロットごとに30ヶ所のランダムサンブリ ングを行れ、超音旋は角検旋を行った結集、不合 機動解散が19歳1の時はロットを停ち、 ただし、合否物はレベルは基準レベルよ り-24根とする。	超音波接傷検査は接取検査を原則とする。 接収検査の場合は、各ロットの30ッ所とし、1ロッ かり吹き合は300円が振災を使用さり、ただ のでは、100円に増工した動所を1ロットとし、 自動と手動は別ロットとする。	限格値を外れた場合は、以下による。 ・不合格ロットの全数につか、信音波探路検査を実施 し、その結果下台が最大のためには、経営員の実施を は、その結果下台が最大ので再正接し、外難検査及び短 音波探傷検査を行う。	

		I		品質管理基準及び規格値 		T	試験成績
種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
材料	多	外観検査(鋼管杭・コンク リート杭・H鋼杭)	目視	目視により使用上有害な欠陥 (鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など) がないこと。	設計図書による。		0
施工	必須	外觀検査(鋼管机)	JIS A 5525	円面別数8の日急・ 外径300mに第一時間2m以下 内径300mに第一時間2m以下: 非容板3m以下 外径500mに第一次 外径500m以下: 非容板4m以下 外径500m以下: 非容板4m以下		・外径のmasteis:上でいたドマいの外周長の遊で表 かその地で出来、以口下とす。 ・外径のmasti. 1、0 fmm1ド:上でいと下でいか外属 長の選下法し、2 の差を4m×× に対下とする。 ・外径1,0 fmmを超え2,000m以下:上でいと下でいか 外周長の窓で表し、その差を4m×× に以下とする。	
		舞管机・コンクリート杭・出銅 杭の現場溶接 波透探傷試験 (溶剤除去性染 色浸透探傷試験)	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	割れ及び有害な欠陥がないこと。	期別として金額接面所で行う。 ただし、施工方法や被工網が等から金数重の実施 が開催と場合は速度といる際により、現場状況 に応じた数能とすることができる。 たお、金箔様 高売の10%以上は、1月 2 2 243-1,2 44.5 向によ り定められた認定技術者が行うものとする。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		
		媚管核、H網杭の現場溶接 放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1額から3頭であること	原則として溶接200ヶ所時に1ヶ所とすらが、施工方 法や位工期に等かっ実施3円間を2億合は支援状況 になした数をとする。20.3、対象面所では新音化 よりに数をとする。20.3、対象面所では新音化 くの機がは20m1ヶ角とする。 (200ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を200ヶ所施工した毎 にその200ヶ所から任度の1ヶ所を試験することであ 5。)		
	その他	顕管核の現場指接 超音波探傷試験	JIS Z 3060		原則と「保存200ヶ所能に1・所とするが、施工が はや他工期所等かっ実施に1・所とするが、施工が はむに大数金とする。なお、対象側所では期間を を切向から振動し、その様数は200m1万向とす。 (20ヶ所能に1・所を1・服務を20・所属工に入断 にその20ヶ所から任意の1ヶ所を実験することであ あ。)	中組り就工法等で、放射線透過狀態が不可能な聯合 は、放射線透過影響に奪えて極音波技術影響とするこ とができる。	
		鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) 水セメント比	比重の測定による水セメント 比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%~ 70%(中場り杭工治)、60%(プレポーリング杭工 法及び鋼管ツイルセメント杭工法)とする。	原料の採取回数は一般に単抗では30本に1回、服抗 では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とす ろ。		
		鋼管柱・コンクリート柱 (根間め) セメントミルクの圧縮強度試 験	セメントミルク工法に用いる 根固め液及びくい周固定液の 圧縮強度が勝 JIS A 1108	収計図書による。	解系体の発展回数は一般に根状では30年に間、 前では20年に間とし、採取本数は同じころき事と することが多い。 なお、機球体はエントミスクのの軟体やの能力 話に扱って作成した65×10cmの円柱側其体によっ で求めるものとする。	等等值:20N/am ²	
施行	必須	支持層の確認	於樂 杭	変換抗の施工により定めた方法を満足していること		中福り就工法(セメントミルク機出機件方式)、 レポーリングは工法、解等フィルセメントは工法及が 加速は工法上式が立て大学物・加速は、大学機構力で選出 成立、大学物・加速は、大学機力では 流性、親分電波像文は同様思考が、の変化をあらかじ、 の変化であるからいである。 加速となった。 加速となった。 本権工における大学権利達等の利 定方法を定める	
施行	必須	礼底法殿物の管理	検測テープ	設計図書による		孔底に沈隆するステイムの徹は、振削完了直後とコ ンクリート打込み前に機関デーブにより前定した孔底 の液度を比較して光度する	
施行	必須	孔底均理	検測テープ	放計図書による		定分の沈降や杭水畑からの土砂の液入等によってスタイムが高ることがあるので、孔板処理からコンタフィイムが高ることがあるので、現金が関連がコンタフィムの状態を有稀認し、必要に23か、(育処理する)	
材料	必須	\$5 正CSM2文物	頭族國查·欽敦在便覧〔4〕-	歴状態度: 修正(1900年に以上、(クラッシャラン鉄鋼 スラグイ経定(1900年以上)。日本学材を合む再生ス フラグインを一川、の場合で、上級製金 大瀬の合計等に以下に示す数値より小さい場合は 水瀬の合計等に以下に示す数値より小さい場合は 水道を出来す。	- 中級級以上の工事: 施工前、材料変更時 - 小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、機能施工商権が10,000m3からい はフェースを受ける。 は、100m2を対する。 は、100m2を対する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模 の工事をいい、100m2は10m2のではりを減少する場合 で、以下のいずれかに設建するものをいう。 ②使用する基準なで減少指定合金が地使用重が500以 2位では、100m2は10m2は10m2は10m2は10m2は10m2は 2位では、100m2は10m2は10m2は10m2は10m2は10m2は10m2は10m2	
		骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 妻2参照			0
		土の液性服界・壁性服界試験	JIS A 1205	塑性指数円:6以下		・鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規度以上の工事とは、管理団能者が10,000m3からい すの資金工事とい、前線施工事のが使用進分,000m3からい は使用する基礎なび実施用混合物の地使用進分,000m は使用する基礎なび実施用混合物の地使用進分,000m には使用する基礎なび実施用混合物の地使用を10,000m3を10 の工事といい。同一工程の施工が取日速度する場合 の工事といい。同一工程の施工が取日速度する場合 の工事といい。同一工程の施工が取日速度する場合 の上事といい。日一工程の施工が取日速度が50m以 の使用する基礎で実施用混合物の地使用量が50m以 が使用する基礎で実施用混合めの地使用量が50m以 ただし、以下に無常するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。	0
	別 材料 施工 施行 施行	別	第	対 (### 2	1	1

					四貝官理整竿及び飛行順			
工種 葬	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
			設 構スクグの水浸物質性 以 験	苗族湖立・ 以 特征规矩 [4] — 90	1.05UT		(S): クラッシャンを勝取スタバニ適用する。 中規模以上の下車とは、管理機を指いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装施工画機が10,000m3からい はたり場合が設集計26。小小規模工事に対象が表現主義の一工事をいい、同一工程の施工が報り基礎が2000以上の場合が設集計26。 の工事をいい、同一工程の施工が報日機能が2000以上の600年上は1000年上は1000年上域2000年以上1000年上は2000年上は2000年上は2000年上域2000以上の60年上域2000以上の60年上域2000以上の60年上域2000以上の60年上域2000以上の60年上が1000以上の60日本地が1000以上の60日本地が1000以上の6日本地が1000以上が1000以上の6日本地が	0
(次頁に続く)								l

			l		品質管理基準及び規格値			試験成績
工種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	表等による確認
10 下層路性	材料	必須	通路用スラグの皇色有定域験	J15 A 5015	最色なし	 中規模以上の工事:施工前、材料変更時 小規模以下の工事:施工前 	・(S: 2 ラッシャラン接触スラグに適用する。 中規度以上の事とは、管理促進いた上での管理 が可能と工事をいい、網絡能工商情が10,000m3からい は比可から基礎の実施用混合かの発使用温が30,000m3からい 以上の場合が設当する。 ・小規模工事と設定が適用混合から発使用温が300m2 の、以下のいずよかに提出するものをいう。 の、以下のいずよかに提出するものをいう。 の、以下のいずよかに提出するものをという。 20世界する基礎及び実施用混合物の発使用量が500以 よ、000にま場にシンタリートでは他の以上1000m2。 期) ただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとす。 のに対して、100m2 は、100m2	
		その他	租舎材のすりへり試験	JIS A 1121	再生のラッシャランに用いるセメントコンのリート再生作材は、すり減り量が60%以下とする。	- 中原模以上の工事・施工術、材料変更時 - 小規模以下の工事: 施工術	再生のタッシャランに適用する。 ・中規度以上の下きとは、管理配を描いた上での管理 が可能と工事をいい、維接施工面積が10,0002からい は比中する基準の実施用限金物の発使用量が3,0002から 以上の場合が設計する。 ・小規模工事は受験で推開場金物に対象でする最級 の、以下のいずおかに提出するものをいう。 の施工商権でしたののに対し10,0002よ前。 ②使用する基準な少数用混合物の発使用量が500以 よ、2001を実施フェクリートではかの以上10,0002よ前 のは、以下に指当するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 1)アスファルト離装:同一配合の合材が100t以上のもの の	0
	施工	必須	周勝密度の側定	請談開査・試験止便覧(4)−256 256 登職機止(JIS A 1214) 砂量機止は、最大配信が53mm 以下の場合のか適用できる	最大影響器度で995以上 130 965以上 33 975以上 受運動所:設計援事による	・瞬間の度は、様々の測定値が最大複雑密度の 20%以上を測定するものとし、かつ平均値につい 以下を測定するものとし、かつ平均値につい 、「解題の度は、104のの形とは、かの平均値につい 、「解題の度は、104の測定値のでは、104の測定値が呼 をいる。104の形態のでは、104の測定値が呼 をはってものとするが、3259解極をはすずれた場合 を測定していればよい。 、1工事かり、2000を提起を場合は、10,000㎡ 以下を11・ロットとし、1 ロットかに 910社で測定 である。 1、1 工事から、10,000㎡ は10円 通加し、 測定施用が均等になるように設定すること。 限定は12,000㎡ 40倍 6,6,000㎡ /1ロット時に10 ・10,000㎡ 上の場合。6,000㎡ /1ロット時に10 ・10,000㎡ /10,0		
		*	ブルーフローリング 平板載荷試験	締装調査・試験法便覧 [4] - 288 IIS A 1215		 ・全幅、全区間で実施する。 1,000a*につき2周の割合で行う。 	・荷重率については、第工時に用いた転往機械と同等 以上の顧問効果を持つローラやトラック等を用いるも のとする。 ・セメントコンクリートの路像に適用する。	
		他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102		・中規模以上の工事: 異常が認められたとき。		
				JIS A 1205	塑性指数PI:6以下	* 中原保以上の上手: 共高が必のられたとさ。	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用 量が3,000t以上の場合が該当する。	
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。		 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるい は使用する無限次支援用混合物の総使用量が3,000t 以上の場合が該当する。 	
11 上層路壁	材料	必須	移正(路路等	游诙调查·环转往便覧[4]- 65	修正GR SONULL アスファルトコンクリート再生青材含む場合90%以上 40℃で行った場合90%以上	 中規模以上の工事:施工前、材料変更時 小規模以下の工事:施工前 	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能と工事をいい、創修施工商情が10,000m3からい は上中の各の大学維持で高くの大学使用業化分のを使用量が3,000m3からい 以上で加多いが維持が多。 の工事をいい、同一工程の地工で数を目標を1を持っ で、以下のいずれかに接対するものをいう。 の他工事情でも、100m3以上10,000m3以上100m3。 20使用する基層文の実施用混合物の総使用量が50m3以 よ、000m3米減に20m3以上100m3。 にだし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとから のただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。	
(疾国仁統<)			表類スラグの格正(図契験	請扶調查·於翰法便覧 [4] — 66	89.E.C00; 809.53.E.		・ 版: 総正調整接觸スラグ及内観: 木模性性度調整 を調えタンに適所する。 を調えタンに適所する。 は、管理税を描いたとでの管理 が可能な工事をいい、競技施工課館が10,000m-あるい は投所する基準の実施研究を使用業を必要使用を が可能な工事をいい。同一工程の施工が取日機能で300以 以上の場合が設計する。 ・小規度工事程度を施工管理に反映できる規模 の工事をいい。同一工程の施工が取日機能でる場合 (加工程度では、同一工程の施工が取日機能が500以 上の100mでは、100mのに対している。 20位所する基礎及び表類用混合物の総使用電が500以 上、500に対している。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200に対しては400m以上100m。 第200m。	0

工種	種	試験	試験項目	試験方法	品質管理基準及び規格値 _{規格値}	試験基準	摘要	試験成績 表第によ
工 種 11 上層路盤	別 材 料	必須	試験項目 骨材のふるい分け試験	試験方法 JIS A 1102	規格値 JIS A 5001 表2参照	京	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理	表等によ る確認
	**	31 1			東之學 抽	・小鬼像が下の工事:施工側	が可能と工事をいい、誘致集工振幅が10,000m3からいは世界する基準の交叉機関用表の物を使用量が3,000m3から以上の場合が議事する。 ・小規模工事は登録機を登工事業に反映できる規令 ・小規模工事は登録機を登工事業に反映でる場合 ・「以下のいずれかに設計するものを決す。 ・「のは工程性の、000m2は上10,000m2以上10,000m2以上10,000m以上10m2以上10,000mm以上10m	
			土の派性混界・塑性深界延験	JIS A 1206	物性指数P1:4以下		・ただし、鉄鋼スラグには適用しない。 ・中規版人との工事とは、管理図を描いた上での管理が 可能な工事をい、着線整工部様が、1000m2からい は使用する基層及で狭衡用品合物の総使用量が3,000 は使用する基層及で狭衡用品合物の総使用量が3,000 エラセい、同一工程や施工が発日連続する場合 で、以下のいずれかに設すするものをいう。 は他用する基準の大手を開きからかを対する。 とは、1000 に未満(コンクリートでは400m2以上1,000m2末 して取り扱うものとする。	i.
			鉄鋼スラグの塩色刊定試験	JIS A 5015 國際國家 - 試験法便覧 [4] — 25	最色なし		・版: 底道順距終期スラグ及び幅5: 未被性底度調整 練期スラグに適用する。 ・中規線以上の工事とは、管理限を描いた上での管理 が可能な工事でい、誘致第二項標が1,000㎡あり、 は使用する基階及で使期限合物の物使用度が2,000㎡ はと用する基階及で使期限合物の物使用度が3,000㎡ 以上の場合が設定する。後は工事に反称できる側で の工事といい、同二工権の第二反称できる場合 で、以下のいずれたに該するものという。 ①第二届間で1,000㎡以上0,000㎡域 位限用する基礎及で映開度が800%以上0,000㎡域 上3,000 は来線(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡域 上5,000 は来線(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡域 上方に、以下には書するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 リフスファルト舗装:同一配合の合材が100以上のも の	
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 80	1.5%UF			0
			表別スラグの一軸圧循្軟	湖族開放·於驗法便覧〔4〕-	1. 28[esE2.L: (14 H)		・ 回路: 水硬性配度開整鉄鋼スフグに適用する。 ・ 中規模以上の工事とは、管理配を描いた上での管理 ・ 中規模以上の工事とは、管理配を描いた上での管理 ・ 中規模以上の連合が設定している。 ・ 小規模にする 基礎及と大変構造している。 ・ 小規模工事は管理結果と極工管理に反映できる規模 ・ 小規模工事は管理結果と極工管理に反映できる規模 ・ 小規模工事は管理結果と極工管理に反映できる規模 ・ 小規模工事は管理結果と指定できる。 ・ 小規模工事は管理結果と極工管をは反映できる規模 ・ 以下のいずれかに設計するものをいう。 ・ 受性用する基礎と対象側高格の特別 ・ は用さいのに対している。 ・ は用さいのに対している。 ・ に表してシタリートでは400m/以上しの00m/末 前の ・ ただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り組みものとする。 1)フスファルト翻模: 同一配合の合材が100に以上のも り	
			表調スラグの単位容積質量試 製	越級剛在,試験法便覧 [2] - 106	1.50kg/LEL±		・版: 投反調整鉄鋼スラグ及 (788): 木枝性粒反調整 を調えタケルに適用する。 ・ 理照が描いた上での影響 カースターに通用する。 ・ 理照が描いた上での影響 カースターに、 ・ 機能は三面等 (10,0002)をも、 は使用する基礎 及び表響用級合物の総使用量が、0000 は使用する基礎 及び表響用級合物の総使用量が、0000 以下のいずれかに設計する。 ・ 小規模工事は野超新学の場合に表する場合 で、以下のいずれかに設計するものをいう。 は本語(エンタリートでは、10,0003/時間)とない。 は本語(エンタリートでは、10,0003/時間)とない。 して取り扱うものとする。 リフスファルト舗装:同一配合の合材が1001以上のもの の	
(後間に続く)			鉄鋼スラグの単位容積質量X 製	請裝開查・試験法便覧 [2] - 131	1. 50kg/LV.Ł		・ WS: 投資開整終期スラグ及内MS: 水便性投資開整 新期スラグに適用すると、管理図を描いた上での管理 が開発工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能と工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能となった。 は上の機合が減当する。 ・ 大規模工事は可能は一般に対する場合 で、以下のいずれたに置するものという。 ①施工順便で1、000年以上の、000年が最 で、以下のいずれたに置するものという。 ①施工順便で1、000年以上の、000年末 が使用する基準とが表情でものとなった。 とが用する基準とが表情であったをいう。 とだし、以下に関するものとない。 こののは、未順(ンクリートでは400年以上に500年末 とだし、以下に関するものにつくり中模な工事と して取り扱うものとする。 リフスファルト制度:同一配合の合材が1001以上のも の	

工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	品質管理基準及び規格値 ^{規格値}	試験基準	摘 要	試験成利 表等によ る確認
11 上層跨盤	林祥	その他	磁酸すちリウムによる脊材の 安定性試験	JIS A 1122	29842 F	 中規模以上の工事・施工前、材料変更時 小規模以下の工事・施工前 	中規模以上の工事とは、常規的企業が、上での普遍 が可能と工事とい、建設施工画模が10,000㎡からい は代収される事態とい、建設施工画模が10,000㎡からい は代収される事態とい、建設を設定を使り重整で3,000㎡から ・小規模工事は管理結構を他工程学に反映できる規模 の工事をいい、同一工程や加工が会と選性で場合 で、以下のいずれがに推当するものをいう。 ②使用する基度反び実備用途合命の総使用量が500㎡以上 10,000 に実施でルタラートでは必然が見上1000㎡以上 に大限り返りからとする。 10,772ファルト建設:同一配合の合材が100に以上のも 07	
	塩工	必須	現場密度の商定	施族開産・試験法模覧 (4) - ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ の理機法は、 メドルをおが38m 以下の場合のみ適用できる	最大機構密度の95%以上 110 95%以上 50 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 0	・範囲の度は、値々の画定能が最大収集密度へ が5以上を無常するものとし、かつ平均能につい ・部間の度は、100-200円に関いて単位を ・部間の度は、100-200円に関いて単位はから場合権 を満足するものとする。また、1041の原定能が単格を値 表するものとする。また、1041の原定能が単格を 表するものとするが、335項格能をはすれた場合 とするものとするが、335項格能をはすれた場合 とするものとするが、335項格能をはすれた場合 とするものとするが、335項格能とはすれた場合 とするものとするが、335項格能とは 107-207-207-207-207-207-207-207-207-207-2		
			粒度 (2.36mmフルイ) 粒度 (75μmフルイ)	請抜調查・試験法便覧 [2] - 16 請抜調查・試験法便覧 [2] - 16	2.36mmからい: ±15%以内 75μmからい: ±6%以内	・中規模以上の工事: 定期的または随時 (1回〜2回)/日)	・中級底以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能と工事をいい、触旋施工面積が10,000㎡あるい は使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000㎡ 以上の場合が接当する。	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215		1,000㎡につき2回の割で行う。	セメントコンクリートの路盤に適用する。	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI:4以下	観察により異常が認められたとき。		
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。			
12 アスファルト安定処理 路盤			アスファルト舗装に準じる					
13 セメント安定処理路盤	材料	必須	一種任能財政	師接頭查・延鞍法便覧(4)- 102	下脚部屋:一軸圧線後を(7日間) 0.888ga: 一軸圧線後を(7日間) 上間部屋: アステット計画製)、2.00ga(セメント コンクリート舗製)、2.00ga(セメント	- 中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・安佐を維持に適用する。 中規模以上の下車とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、機能版工調模が10、000miのあらいは、12、12、12、12、12、13、13、13、13、13、13、13、13、13、13、13、13、13、	
			寄材の移正(放試験	描绘测查·契翰在恢复〔4〕— 66	下層函数: 206以上 上層函数: 206以上		中様成し上の工事とは、予照的と指いたとつの背景 の可能と工事とい、無知能工品報が1,000mはあら、 は使用する基層及び表現用混合物の総使用量が3,000 よの場合が建せする。 ・小規模工事は管理結果を施工予算に反映できる規模 の工事をいい、同一程の地工が会り機合である。 の地工事をい、同一程の地工が会が機関を終めい の地工事をい、同一程の地工が会が機関を が使用する基度が実現用混合やのは以上1,000㎡ 上3,000 よ海(ロンクリートでは400㎡以上1,000㎡ たとし、以下に転出するものについても小規模工事と し、以下に転出するものについても小規模工事と の、以下に転出するものについても小規模工事と の、以下に転出するものについても小規模工事と の、以下に転出するものについても小規模工事と の、以下に転送するものについても小規模工事と の、以下に転送するものについても小規模工事と の、以下に転送するものについても小規模工事と の、以下に転送するものについても小規模工事と の、以下に転送するものについても小規模工事と の、の、対応を ののは の、対応を の、が、対応を の、対応を の、対応を の、対応を の、が、対応を の、対応を の、対応を の、対応を の、が、対応を の、対応を の、対応を の、対応を の、が、対応を の、対応を の、対応を の、対応を の、が、対応を の、対応を の、が、が、対応を の、が、対応を の、が、対応を の、が、対応を の、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が、が	

					品質管理基準及び規格値	T		試験成績
工種	利	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
13 セメント変定処理路盤		必須	土の武性規序・塑性服序試験	15.8 A 1205	下開始度 地性物能型 上開始度 型性指数型:9以下	- 中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中級版以上の工事とは、管理部を指いた上でや管理が示す。 が可能と工事とい、繊維施工面解が1,000miあらい、 は使用する基礎など実施用混合物の接便用整が2,000 は使用する基礎は対象を拡工等限に扱やさる機能 ・ か、機能工事に管理機能工業を自連機能では、反映できる機能 で、以下のいずれか、定算するものをいう。 ①施工事情で1,000mi以上10,000mi未満 を使用する基礎を実施する機能である。 に、以下のいずれか、定算するものをいう。 ①施工事情で1,000mix 上3,000 x未満 (1)00mix 上3,000 x未満 (1)2 y リートでは400mix 以上1,000mix 上5,000 x未満 (1)2 y リートでは400mix 以上1,000mix 上5,000 x未満 (1)2 y ルートでは400mix 以上では100mix ようしい。以下に該事するものについても小規模工事としまった。 17 x x y x x x x x x x x x x x x x x x x	
	施工	必須	報度 (2.36mmフルイ)	JIS A 1102	2.36ma-5-5 (v : ±15%21/4	・中規模以上の工事: 定期的または随時 (1回〜2回/日)	・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能と工事をいい、維禁施工面積が10,000㎡あるい は使用する基準区が横南県合物の総使用量が3,000㎡ 以上の場合が接当する。	
			粒度(75μmフルイ)	JIS A 1102	75μmふるい: ±6%以内	中規模以上の工事:異常が認められたとき。		
			英語を使の測定	語報商を、終終所援軍(4) の登職機と以下A(2015) の登職機とは、最大な代がSham 以下の場合のみ適用できる	最大電響器で90%以上。 100 96以上 150 96以上 150 96。以上 150 96。以上 中連動所: 設計保鬱による	・瞬間の度は、無々の衛生部最大政策階度の の形以上を開催するものとした。アッサ地域につい て以下を開催するものとする。平分地にいた状態を ・場面が度は、100mm間と、100mm間と、100mm間とが がたい場合は34元の制度性の子野地334環路低を消 がたい場合は34元の制度性の子野地334環路低を消 は、まちに34元のデータを加えた平均地334環路低を消 が設していました。130mm間とから中地332年間 は、まちに34元のデータを加えた平均地334環路低を消 は、まちに34元の一を加えた平均地334環路低を が同じていまし、130mmにあたり104元制度する。 (間) 100mmに対した10mmに対した104元制度 100mmに対した104元制度 ・一般性30mmが対したなどの00mmに対してから ・一般性30mmが対したなどができません。 (間) 100mmに対した10m		
		その	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	観察により異常が認められたとき。		
		他	セメント量試験	維抜調査・試験法便覧[4] - 293,[4]-297	生1.26以内	・中間度以上の工事: 異常が認められたとき (1 ~ 2回/ 日)	・中原保以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をい、雑誌施工画権が10,000㎡あらい は使用する基層なび挟御用混合物の総使用量が3,000㎡ 以上の場合が被当する。	
14 アスファルト舗装	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 武2李區	 中規模以上の工事:施工前,材料変更時 小規模以下の工事:施工前 	・中級級以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能と工事をいい、維整施工商権が10,000㎡あらい 以上の場合が接着する。 に使用する基礎が接着用混合物の発使用量が3,000㎡あらい 以上の場合が接着する。 の工事をいる。 一工程の地工が最も国産がまた場合で、以下のいずれかに接達するものをいう。 の他工商権でしたがまた。 2,000 に表慮にクタリートではのの以上10,000㎡、 また。 13,000 に表慮にクタリートではのの以上10,000㎡。 また。 以下に終当するものについても小板様工事と でになり扱うものとす。 10 下のようないでは、10 下のようないでは、10 下のようない。 10 下のようないでは、10 下のようないでは、10 下のようないでは、10 下のは、10 下のようないでは、10 下のまでは、10 下のようないで	0
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度: 2.45g/cal以上 吸水率 : 3.0%以下			0
			骨材中の粘土境量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量:0.25%以下			0
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] - 51	網長、あるいは傷平な石片:10%以下			0
			フィラー (舗装用石灰石粉) の粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」表3.3.17による。			0
			フィラー (舗装用石灰石粉) の水分試験	JIS A 5008	1%以下			0
(後間に続く)		その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1295	4EV F	 中規模以上の工事:施工術、材料変更時 小規模以下の工事:施工術 	・火波岩類を粉砕した右粉を用いる場合に適用する。 ・中度線以上の1事とは、管理間を指いた上でつ管理 ・中度線以上の1事とは、管理間を指いた上でつ管理 ・中域を1事を1、 機関を1 を	0

						品質管理基準及び規格値	T	1	
エ 種		種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績 表等によ る確認
14 アスファルト盤	審装	材料	やの他	フィラーのフロー試験 フィラーのフロー試験	離装調査・試験法便覧 [2] - 65 輸装調査・試験法便覧 [2] - 83	SONEL F	・中規模以上の工事:施工前,材料変更時・小規模以下の工事:施工前	・ 火成時報を粉除した石砂を用いる場合に適用する。 ・ 中規策以上の事をは、管理処理機能かと比での管理 が可能と工事をいい、結婚総工部標が10,000㎡あるい は比可かる基礎の交換期用点の物の接使用量が3,000㎡あるい 以上の場合が統計する。 ・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模 の工事といい、同一工権の施工が貸日連修する場合 で、以下のいずれたに該当するものをいう。 ①施工庫様で1,000㎡以上10,000㎡未満 空機用する基礎の交換網用差が5000以 を使用する基礎の交換網用差が5000以	
				フィラーの剥離抵抗性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -	DARLE		上5,000 t 未満(コンクリートでは400㎡以上,000㎡未 満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のも の	0
				2 1 7 VARIBBULIEVER	78	1/49/1			0
				製鋼スラグの水浸粉蛋性試験	游技周查·跃敞法便覧 [2] - 04	水浸糖避比; 2.0%以下		中部展示上の工事とは、学習的と描いたようの容易 が可能な工事とい、機能数工程等が1,00m/18 あり、 は使用する基礎及び失響用混合物の地検用量が3,00m よいの場合が設計する。 ・小規模工事は管理結果を単立等は反映できる規模 の工事とい、10 では、10 での付よ過 で使用する基礎及で乗削混合物の地接用量が50m以 と使用する基礎及で乗削混合物を使用量が50m以 上3,00m は素値(コンクリートでは40m以上10,00mは にし、以下に譲するものとする。)	. 0
				製鋼スラグの密度及び吸水率 試験		SS			0
				租骨材のすりへり試験	JIS A 1121	すり減り量 等石:30%以下 CSS:50%以下 SS:30%以下			0
				縦酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122	損失量:125以下			0
				租骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石龍: 5%以下			0
				針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー収賞アスファルト: 表3.3.3 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	-		0
				軟化点試験	JIS K 2207	請装施工便覧参照 ・舗製用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー改賞アスファルト: 表3.3.3	-		0
				伸度試験	JIS K 2207	請抜施工便覧参照 ・離製用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー改賞アスファルト: 表3.3.3	-		0
				トルエン可容分試験	JIS K 2207	請装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4	-		0
				引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	請装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ボリマー改賞アスファルト: 表3.3.3 ・セミプローンアスファルト: 表3.3.4			0
				薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマー改賞アスファルト: 表3.3.3 ・セミプローンアスファルト: 表3.3.4			0
				蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	論技施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1	-		0
				密度試験	JIS K 2207	請装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト: 表3.3.1 ・ポリマーの質プスファルト: 表3.3.3 ・セミプローンアスファルト: 表3.3.4			0
				高温動粘度試験 60℃粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2] - 212 舗装調査・試験法便覧 [2] -	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト: 表3.3.4			0
					224 舗装調査・試験法便覧 [2] -	論抜施工便覧参照	_		0
(次頁に続く)					289	- ポリマー改賞アスファルト: 表3.3.3			0

			1		品質管理基準及び規格値			*******
工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績 表等によ る確認
14 アスファルト競技	7 }	必須	征度(2.36mmフルイ)	請請兩查·延轉任便覧(2)— 16	2.30mm.ふらい:±12%以吟基等位度	・中規模以上の工事・定期のまたは動時。 ・小規模以下の工事・選挙が認められたとき。 中半な縁の場合:金数または抽出・ふるい分け鉄 数1~2回/日	・中規模以上の工事とは、管理部を構造か上でで管理が示す。 が可能と工事とい、創業施工部的(1,000㎡ある)、1 は使用する基施度が実用用混合物の接便用意が3,000 は使用する基度が実用用混合物の接便用意が3,000 は、1 にのできませます。 は、1 にのできませます。 は、1 にのできませます。 は、1 にのできませます。 は、1 にのできませます。 にのできませます。 にのできませます。 にのできませます。 にのでは、1 にのできませます。 には、1	
			粒度 (75 μm フルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16	75μmふるい: ±5%以内基準粒度			0
			アスファルト量抽出粒度分析 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 238	アスファルト量: ±0.9%以内			0
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)		配合設計で決定した混合温度。	随中		0
	プラント	その他	水浸ホイールトラッキング試験 ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] - 65 舗装調査・試験法便覧 [3] -	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	0
			ラベリング試験	組装調查·試験法便覧[3] -			アスファルト混合物の耐流動性の確認 アスファルト混合物の耐燃料性の確認	0
	論	W.	現場密度の測定	18	- 基準変度の944U F.	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以	- 護売締集けって禁助 かいでなるける (プラット)	0
	設現場	須		218	1310 の6以上 200以上 33 96、以上 沙池 龍所: 設計以書による	上金瀬上するものとし、かつ平均側について以下 の機計するものとし、かつ平均側について以下 ・福岡の度は、1047の前で他の平均値以び現積値 を構定するものとする。また、1047の前で他が持 を構定するのとする。また、1047の前で他が持 を対象ものとするが、3357個整盤ではすれた場合 を構建していまばよい。 ・11事券とカラムののを超える場合は、10,000㎡ 以下を12ファととし、1コットあたタ1041で前近す の。101年以下とは、12ファトカルタ1041で前近す の。101年以下とは、10、100㎡は10月流加 10、001㎡は上の場合、10、000㎡が1コットをは 東美は12、200㎡の合う。6、000㎡が1コットをは 104、合粋の4 では、11年券たクラムのの4/1コット等は では、11年券たクラムのの4/1コット等。	密牧動)と縁縮高値及び呼さでの必度管理、または転 圧回数による管理を行う。	
			温度測定 (初転圧前) 外観検査 (混合物)	温度計による。	130で以上 参ただし、混合物の種類によって敷き均しが困難 な場合や、中國化技術により施工性を改善した課 合物を使用する場合、縮固め必果の高いローラを 使用する場合などは、所定の縮固め度が得られる 範囲で、適切な温度を設定	DBB 中	朝定植の記録は、1日4回(午前・午後各2回)。	
		その	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1] - 101	設計図書による	舗設車線毎200m毎に1回		
15 転圧コンクリート	材料	他必須	コンシステンシーVC試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値:50秒	当初		
	了 I S マ I		マーシャル突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指 針 (案) ※いずれか1方法	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率:96%			
	表示されたレデ		ランマー突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指 針(案) ※いずれか1方法	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 経囲め率:97%			
	ノイーミクスト		含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。		含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむえずおこなえない場合に適用する。 なお測定方 法は試験の迅速性から直火法によるのが騙ましい。	
	コンクリートを		コンクリートの曲げ独度試験	JIS A 1106	設計図書による。	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。		
	使用する場	その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	舗装施工便覧 細管材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.22	組骨材300㎡、粗骨材500㎡ごとに1回、あるいは1 回/日。		0
	合は除く)		骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	設計図書による。			0
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	設計図書による。	工事開始前、材料の変更時		0
(次頁に続く)			租骨材のすりへり試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地25%以下		ポワイトベースに使用する場合:40%以下	0

		1		品質管理基準及び規格値		T						
種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認					
材料 丁ISマーク表示され	その他	学材の微粒分量試験	JIS A 103 JIS A 5005 JIS A 5308	照弊財 か石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率が58%) 以上の場合は5.0%以下 スク型開射 5.0%以下 てそれが、60円等) 1.0%以下 場前等 7.2%以外 (60円等) 3.0%以下 (ただし、発砂で粘土は5.0%以下 (ただし、発砂で粘土、ジルト等を含まない場合は5.0%以下)	工事開始前、材料の変更時		0					
レディーミク		租骨材中の軟石量試験	JIS A 1126	軟石盤: 5%以下		観察で問題なければ省略できる。	0					
ストコンクリート		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。		・濃い場合は、JIS A 1142「有機不能物を含む掃骨材 のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0					
- を使用する場		モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0					
合は除く)		骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材: 1. 0%以下 租骨材: 0. 25%以下	工事開始前、材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。	0					
		/cm3の液体に浮く粒子の試験 磁酸ナトリウムによる骨材の	JIS A 1122	細作材:10%以下		深谷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0					
		安定性試験 セメントの物理試験	JIS A 5005 JIS R 5201		工事開始前、工事中1回/月以上		0					
				JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			0					
		ポルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (森野セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			0					
		練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5308附属書C	磁器解析の集、2c.1以下 効解性無限程度が第:1c/以下 塩化粉イン量: 200pps以下 塩化粉イン量: 200pps以下 は200p以内 は200p以内 たルタルの圧縮強度比: 材解7及U28日で90%以上 たルタルの圧縮強度比: 材解7及U28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	「上水運を使用している場合は延興に換え、上水運を使用していることを示す資料による確認を行う。	0					
				製・子	製・そ	製造をの		回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの基結時間の差: 約発は30分以内、終結 は50分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢収及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	・その原本は上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0
製造(プラント)	その他	計量設備の計量精度		水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材: ±2%以内 属和材: ±2%以内 (高原スラグ機能の必勝の必勝合は±1%以内) 護和剤: ±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録に より確認を行う。	0					
↑1Sマーク表示されたレディーミクマ		マキサの練品が生産比較	ベッテミキサの場合: IIS A 119 JIS A 8600-1 JIS A 8600-2	コンタリー・小商業定量 金外容量の場合: コンタリート内のモルタル値の偏差率: 0.8%以下 コンクリート内の超外での偏差率: 5%以下 エンクリート内の遊気動で幅差率: 10%以下 コンクリート内の遊気動で幅差率: 10%以下 エンクリート内の遊気動で幅差率: 15%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	- 接接用無が60分支票の場合は1回以上の2枚乗、また はレディーキックトロークリート工場の品質証明書等 のみとすることができる。	0					
ストコンクリートを使用す		ミキサの練混ぜ性能試験	運統ミキサの場合: 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積買量差: 8.5% ドニンクリート中の単位配費付量の差: 5%以下 日本的単位配換差: 5%以下 空気差差: 1%以下 スランプ差: 3m以下			0					
,る場合は除く)		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	空间/日以上	レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。	0					
	その他	租骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による	1回/日以上	レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。	0					
	別 材料 ①18マーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除く) 野途 (ブラント) ①18マーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合は除り	別 材料	別	類	## 200	### 15 19 19 19 19 19 19 19	### 1970					

	種	試験			品質管理基準及び規格値			試験成績
エ 種 15 転圧コンクリート	別施	区分	試験項目 コンシステンシーVC試験	試験方法	規格値 修正VC値の±10秒	試験基準 1日2回(午前・午後)以上、その他コンシステ	摘要	表等によ る確認
	I	आ				ンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。 ただし運搬車ごとに目視観察を行う。		
			マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法便覧 [3] - 344 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%			
			ランマー突き固め試験					
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	・ 純難回数が同以上(回はお伽以上の供飲体の 字幼館) の場合が表 会部の影雑値の平均値が所定の合格判断強度を上 まもものとする。 ・試験回数が同本満となる場合は、 ①回の試験組集は伝言各準体度の88以上 ②回の試験組集の平均値は配合基準強度以上	2回/日(午前・午後)で、3本1組/回(材齢28日)。		
			温度測定(コンクリート)	温度計による。		2回/日 (午前・午後) 以上		
			現場密度の測定	RI水分密度計	基準密度の95.5%以上。	40mに1回 (横断方向に3ヶ所)		
			コアによる密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] - 353		1,000m ² に1個の割合でコアを採取して測定		
16 グースアスファルト舗 装	材料	必須	曾材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS 4 5001	- 中国模以上の工事: 施工前, 材料変更時 - 小規模以下の工事: 施工前	・中級機以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、無常施工高額が10,000㎡あるい は使用する基準で増加限合物の地使用量が3,000㎡ある ・ 小塚原工事は管理結果を増工管理に反映できる原 の工事をいい、同一工額や施工が最日連載する場合 で、以下のいずれかに接出するものをいう。 近距工商程で、000㎡は上の000㎡は一度 2位所する基準とで使用が配合物が地使用量が500㎡ 2位所する基準とで使用が配合物が地使用量が500㎡ 1,000㎡を開始を100㎡によりかのに対し、100㎡を100㎡によりかのに大量にある。	0
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度: 2. 45g/cal以上 吸水率 : 3. 0%以下		回が。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のも	0
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊盤:0.25%以下		Ø	0
			租骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -	細長、あるいは偏平な石片:10%以下			
				51				0
			フィラー (舗装用石灰石粉) の粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」3. 3. 17による。			0
			フィラー (舗装用石灰石粉) の水分試験	JIS A 5008	INGE			0
		その他	租骨材のすりへり試験	JIS A 1121	505EZ F	- 中級模以上の工事: 施工前, 材料変更時 - 小坂模以下の工事: 施工前	・中級級以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事をいい、無数能工面積が10,000㎡あるい は使用する基準で数単用度合物を使用量が3,000㎡あるい 1. 小塚原工事は管理結果を増工管理に反映っさる規模 の工事をかい、同一工程の地工が毎日運動であっ 位地工商程でしたののはおした。000㎡の日本といい。 2位世市でる基礎区が実際販売合物の接使用量が5000以 1. 以下に数当するものという。 した。000 末週にフタリートでは必可以上1,000㎡本 ただし、以下に数当するものについても小規模工事と したでの投与ものとする。	0
			磁酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122	損失量:12%以下		して取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のも の	0
								Ů
			針入度試験	JIS K 2207	15~30(1/10mm)		 現格値は、石油アスファルト(針入度20~40)にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状能である。 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m2あるいは使用する基層及び表層用混合物の後使用量が30,000m 	
			軟化点試験	JIS K 2207	58~68°C		以上の場合が該当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映ささる規模 の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合 で、以下のいずれかに該当するものをいう。 の能工商様で1,000㎡以上1,000元2末間 22使用する基層及び実際用混合物の途使用量が500以 23、000 末 24、100m3末 24、100m3末 25、100m3末 25、100m3 25 (100m3 25 (100m	
			伸度試験	JIS K 2207	10cmELE (25°C)		こ。000 (未満(コンクット)では000m以上1,000muxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhuxhu	0
			トルエン可溶分試験	JIS K 2207	86~91%			
								0
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	240°CSLE			0
			蒸発質量変化率試験	JIS K 2207	0.5%以下			0
			密度試験	JIS K 2207	1.07~1.13g/cm3			0
(次頁に続く)								~

					品質管理基準及び規格値			
工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
16 グースアスファルト舗 装	プラント	湖	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3] - 402	買入量 (40°C) 目標値 表層: 1∼4mm 基層: 1∼6mm	配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満 の場合も実施する。		0
			リュエル流動性試験240℃	舗装調査・試験法便覧 [3] - 407	3~20秒(目標値)			0
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] - 44	300EALE			0
			曲げ試験	舗装調査・試験法便覧[3]-	破断ひずみ (-10°C、50mm/min) 8.0×10-3以上			
			粒度 (2.36mmフルイ)	About the sales of	2.36mmふるい: ±12%以内基準粒度		・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理	0
			和.改(2. 3bmm / ルイ)	請装調查・試験法便覧 [2] - 16	2. Stomm.sv らい: エ12%以内基準程度	・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下の工事:異常が要められたとき。 印字記録の場合:全数または抽出・ふるい分け試 験 1~2回/日	が可能と工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるい は使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000 以上の場合が酸当する。 ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模 の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合 で、以下のいずおかに総サーさものをいう。	
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16	75μmふるい: ±5%以内基準粒度		①第二面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 2億用する基層及び美層用混合物の総使用量が500㎡以上3,000 1未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未 調)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 リアスファルト謝数:同一配合の合材が100℃以上のも リアスファルト謝数:同一配合の合材が100℃以上のも	0
			アスファルト量抽出粒度分析 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 318	アスファルト量: ±0.9%以内		117 スノアルト調製:同一配合の合材か1000以上のもの	0
			温度測定(アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	アスファルト: 220°C以下 石 粉: 常温~150°C	原加宁		0
	繒	W.	温度測定 (初転圧前)	温度計による。		随時	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	
	現場	须						
17 路床安定処理工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
	施工		CBR 財験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 227, [4] -230	設計図書による。			
		施工 级	現場密度の測定 密右配映象方法 (3種類) のい ずれかを実施する。	最大粒格≤53mm: 砂壓換法 (JIS A 1214) 最大粒径>53mm· 維接調查·試験法便覧 [4] 188	設計図書による。	500m ² につき1回の割合で行う。ただし、1,500m ² 天 調の工事は1工事当たり3回以上。 1回のが繋につき3礼で測定し、3礼の最低値で判 定を行う。		
				または、 紅計路を用いた盛土の韓語め 宮理要爾(集)		返土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割 して管理単位ことに管理を行うものとする。 即 のの面積は1,500年度間をし、1100年 延期をし、1200年 よりの電力は1,500年度間をし、1100年 正確様と よりのは「上かける」と、1世単位かかりの副定点 数の1度を以下に示す。 500年度は1,500年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度、1,100年度 1,100年度	 最大校蔭<100mmの場合に適用する。 な起の場局を適応していても、規格値を書していても、現格値を書していても、現格値を置している。 (海) 転正を行うものとする。 	
				または、「YS・GXSSを用いた 業士の韓国が管理要額」によ も	だけ締め間められたことを確認する。ただし、路 開から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物 関辺は除く。	1. 整士を管理する単位(以下「管理単位」)に 分削して管理単位能に管理を行う。 2. 管理単位法を、		
			プルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] - 288		路床仕上げ後、全幅,全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等 以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いる ものとする。	
		÷.	平板載荷試験	JIS A 1215		延長40mにつき1ヶ所の割合で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
		他					- ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
			現場CBR試験	JIS A1222	設計図書による。	各単線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。		
			含水比試験	JIS A 1203		500m ² につき1回の割合で行う。ただし、1,500m ² 未 適の工事は1工事当たり3回以上。		
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] - 284 (ペングルマンピーム)	設計図書による。	プルーフローリングでの不良箇所について実施		

_			1	1	品質管理基準及び規格値			****
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
18 表層安定処理工(表層 混合処理)	材料	その他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。	配合を定めるための試験である。	
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記球験方法 (3種類) のい ずれかを実施する。	最大粒径≦S0mm: 砂型換法(JTS A 1214) 最大粒径>S3mm: 輸装調查・軟験法便覧 [4] -185 -256-256-256-256-256-256-256-256-256-256	放計図書による。	30年につき3回の割合で行う。ただし、1.500㎡未 適り工事社工事当たり3回以上。 1回の実験につき3机で測定し、3項の最低値で判 定を行う。		
				または、 以計器を用いた盛士の締囚め 管理受損(業)	放計回答による。	盛士を管理する単位(以下「管理単位)」に分割 して管理を行うものとする。 目の創意からの低工調度を基準とする。 岩準 位の調度は1,50m ² を標準とし、110m位工事経 のが成まれ、50m ² を標準とし、110m位工事経 のが成まれ、50m ² を標準とし、110m位工事経 のの基本機 を以下に示す。 500m ² 次上100m ² 末瀬 : 1.0点 1100m ² 以上100m ² 末瀬 : 1.5点	・最大物格く100mの場合に適用する。 ・な恋の規格を適応していても、現格値を苦しく下 回っている点が存在した場合は、監督員との指摘の上 で、(特)転託を行うものとする。	-
				差たは、「TS - GSSSを用い た盛上の縁国の管理要領」に よる	だけ締め固められたことを確認する。ただし、路 開から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物 開辺は除く。	1. 歳上を管理する単位(以下「管理単位」)に 分割して管理単位は「管理を行う。 分割して管理単位は「管理を行う。 とうの地工面側は、500mで結構とする。また、1 の地工面側は、500mで結構とする。また、1 の地工面側は、500mで結構とする。また、1 では、1 の地工面側とのでは、500mでは、1 では、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に、1 に		
			プルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] - 288		路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた私圧機械と同等 以上の解因め効果を持つローラやトラック等を用いる ものとする。	
		その他	平板載荷試験 現場CBR試験	JIS A 1215 JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。		
			含水比試験	JIS A 1203		500m3につき1回の割合で行う。ただし、1,500m3未 満の工事は1工事当たり3回以上。		
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16 (^*ンダルマンピーム)		プルーフローリングでの不良箇所について実施。		
19 固結工	材料	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均 値で表したもの	当初及び土質の変化した時。	配合を定めるための試験である。 ボーリング等により供試体を採取する。	
			ゲルタイム試験			当初及び土質の変化した時。	配合を定めるための試験である。	
	施工	必須	改良体全長の連続性確認	ポーリングコアの目視確認		改良体の上端から下端までの全長をボーリングに より採取し、全灰において連続して改良されてい えことを目収録をする。500本以上は250本増える ごとには未進かことには大道から 次と体のの未満は3本、500本以上は250本増える ごとには未進かる。 現場かま件、規模等により上記によりがたい場合 は監督員の指示による。	 ボーリング等により供政体を採取する。 改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認したボーリングコアを利用してもよい。 	3
			土の一軸圧縮試験 (改良体の独倒)	JIS A 1216	①合併契体の財験結果は改良地盤設計地度の888以 ②1回の原味結構は改良地盤設計地度以上 之は、1回の原味は12個の供試体の映製値の平均 値で表したもの	改員体500本末齢は3本、500本以上は250本増える ごとには金額かずる、砂糖は1本の改員体につか、 ことには金額かする。 によったのように対し他数を変えている場合は、 各設計機関に3回とする。 最初の条件、規模等により上記によりがたい場合 は監察員の指示による。	 改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認 したボーリングコアを利用してもよい。 	5
20 アンカーエ	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	2回(午前・午後)/日		
			モルタルのフロー値試験	JSCE-F 521-2018	10~18秒 Pロート (グランドアンカー設計施工マ ニュアルに合わせる)	練りまぜ開始前に試験は2回行い、その平均値を フロー値とする。		
			適性試験 (多サイクル確認試 験)	グラウンドアンカー設計・施 工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
			確認試験 (1サイクル確認試 験)	グラウンドアンカー設計・施 工基準、同解説 (JGS4101-2012)	設計アンカー力に対して十分に安全であること。	・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべい。 ・初期荷盤は評議是大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重を破荷した後、初期荷重まで除荷する1 サイクル方式とする。	ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。	
(次頁に続く)								

工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験が表等に る確認
・アンカー エ	施工	その他	その他の確認試験	グラウンドアンカー設計・施 工基準、同解院 (J6S4101-2012)	用定の緊張力が導入されていること。		・定省等無限力能認試験 ・残存引張力能認試験 ・残存引度力能認試験 ・弱があり。多サイクル確認試験、1サイクル確認試験 の試験結果をもとに、監管員と協議し行う必要性の有 無を判断する。	
補強土壁工	材	W.	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
	料	31(外観検査 (ストリップ、鋼製 壁面材、コンクリート製壁面 材等)	補強土壁工法各設計・施工マ ニュアルによる。	阿在	阿左		
			コンクリート製壁面材のコン クリート強度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。				0
		そ の 他	土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マ ニュアルによる。	同左	設計図書による。		
	施 工	必須	現場密度の測定 泰右記試験方法 (3種類) のい すれかを実施する。	最大校径553mm: 砂醛換法 (JTS A 1214) 砂醛换法 (JTS A 1214) 最大校径-53mm: 動裝碗查: 試験法便覧 [4] - 256 突砂法:	次の第本への指摘のより家と表情的の含水化において、 製水電機器度でのNSQLに (機器が対象 (31s A (10) A 20 (2) (2) (2) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3	300m代へき計画の割合で行う。ただし、1,500m代表 適の工事は工事当たり3回以上。 1回の収載につきまれて勘定し、3礼の最低値で判 定を行う。	・議告背面アプローチ部における規格値は、下記の通 りに は に に に で の で の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に に る に の に 。 に る に 。 に る に る に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る 。 に る 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に	
				または、 「紅野都を用いた盛土の締囚 の管理機関(策)」	次の密度への線温かが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場を厳密度の平均値が最大を機 度密度の可応は、(経調が機 UTS A 1210) A- 100 もくく220%以上 (経調が機 UTS A 1210) A- ただし、ITS A 1210 c-9。と述での管理は、標準 の施工性集り、台間側のよれギーの施工がより、保証が 方法(例えば、標準より、も底圧力の大きな機械を 模用する場合で、計画といっの仕上り厚を薄くする 場合)に適用する。	逐上を管理する単位(以下「管理単位」)に分割 して管理単位ことに管理を行うものとする。 部体・高床とも、1日の1線かた79の施工面線を基 年とする、管理単位の面積は1,500年以上の場合、その施工面線 を登画単位以上に分析するものとす。(管理単位からか)の概定点板の目を定以下に示す。 2500年以上1000年末前 1,100年末前 1,100年末 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年末前 1,100年	・	
				または、「珍・GXSを用いた 盛士の韓国が管理要領」によ る	施工範囲を小分割した管理アッカの全てが規定回数 だけ締み個められたことを撮影する。ただし、婚 関から1 田広灯と緩固め機械が近寄れない構造物 周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位 (以下「管理単位」) に 分解して管理単位部に管理を行う。 2. 管理単位は実施、新幹額まとも1日の1層当 たりの施工面積は1,500mと信標サードる。また、1 の製工面積が2,000mで以上の場合、7の施工面積 を管理単位以上に分解するものとする。 3. 11の協工が影響をあるとする。 3. 11の協工が影響を表といるしたとか を企業機能・またがらせることはしないものとす。 4. 上取り場の大学で士質技化がより番号に は、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
吹付工	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	「アルカリ骨材反応抑制対策 について」(平成14年7月 31日付け国官技第112	同在	滑材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び毫地が変わった場合。		
				号、国本服第35号、国空建第78号)」				(
見る	を使用する場合は除く	背材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~5 JIS A 5021	政計図書による。	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び感地が変わっ た場合。		(
	.(く) ク表示されたレディーミクストコンクリ	骨材の態度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5017-1~5 JIS A 5021	総統商度:2.5以上 総合材の股大率:3.5%以下 指常材の股大率:3.0%以下 (活動・計会、高原スラグ報子材、フェロニッケル ステブ解子材、現スラグ報子材の販格値について は調整を参加	工事開始前、工事中1回/月以上及び密地が変わった場合。	JIS A 5005 (22)サー用命石及び幹砂) JIS A 5011-1 (22)サー用助介及び幹砂) JIS A 5011-2 (22)サー用助了・青村一第 1 部:高炉スケ)・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン・サイン		

		Ι.	1		品質管理基準及び規格値		1	試験成績
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験 放積 表等によ る確認
22 吹付工	材料	その他 丁ISマーク表示されたレディーミクス	得材 <i>小</i> 微粒分量灰獭	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5008	照像材 から 38 (MAJF (人だし、粒形判定実績率が58% 以よう機能が 5.0%以下 それ以外 (20世間) 1.0%以下 をおいる (20世間) 1.0%以下 ・ 1.0%以下 (ただし、ナラヘリ作用を受ける 場合は、0%以下 (ただし、ナラヘリ作用を受ける 場合は、0%以下 (ただし、ナラヘリ作用を を受ける場合は、0%以下 (ただし、ナリヘリ 作用を受ける場合は3.0%以下 (ただし、ナリヘリ 作用を受ける場合は3.0%以下 (ただし、ナリヘリ	工事制能。工事中1回/月以上及び避免が変わった場合。 (心巻の場合は、工事中1回/週以上)		0
		トコンクリートを使用	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より終いこと。濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材 の1494圧縮強度による契勢方法」による。	0
		する場合は除く)	モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の99%以上	契料となる夢の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0
			骨材中の粘土塊蓋の試験	JIS A 1137	総管材: 1.0以下 租管材: 0.256以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			磁酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	報告材:195以下 租俸材:125以下	参明: 工事門も間、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 おのた場合。 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	場合地で連絡のおそれのある地点に適用する。	0
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 2010 (ボルトランドセメント) JIS R 5021 (高野セメント) JIS R 3021 (グラセメント) JIS R 3021 (ブライアッシュセメント) JIS R 3021 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
			ポルトランドセメントの化学 分析		JIS R \$210 (ポルトランドサメント) JIS R \$211 (高かセメント) JIS R \$212 (ホリカセメント) JIS R \$232 (ファイアッシュセメント) JIS R \$234 (エコセメント)			0
			練混ぜ水の水質試験	正水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5908附属書C	報動物質の第: 26-1以下 海体性無疾性的の第: 16-1以下 塩化物イオン量: 200pps以下 セメントの最近時間の差: 34-8社は30分以内、終結 12-80分以内 モルタルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で90%以上	正春期始前、正事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。	上水道を使用している場合は延輝に構え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	0
				回收水の場合: JIS A 5308附属書C	遊化物イナン量: 200pm以下 セメントの凝結時間の差: 前発は30分以内、終結 150分以内 モルタルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。 スラッジ水の譲度は1回/日	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0
	シクリートを使用す ラント)	必須	細骨材の表面水平試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用す 6。	
	↑ ISマーク表示さる場合は除く)		租作材の表面水率政験	JIS A 1125		1回/日以上		
(次頁に続く)	れたレディーミクストコ	その他	計量設備の計量精度		水: 土1%以内 セメント: 土1%以内 連和村: 12%以内 (高炉スラグ微粉末の場合社土1%以内) 連和剤: 土3%以内 地和剤: 土3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録に より確認を行う。 ・ 急結剤は適用外	0

		206	****	I		品質管理基準及び規格値		Ι	試験成績
23 吹付工	種	種 別 場製	試験区分	試験項目	試験方法 バッチミキサの場合:	規格値 コンクリートの練混ぜ量	試験基準	摘要・小拇缩丁種※で1丁種※hの終始用量が50-9キ準の	表等による確認
23 吹付工		場合は除く) (1gマーク表示されたレディーミクストコンクリート製造)	その他	ミキサの練器で性能試験	JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 連続ミキサの場合: 上木学会規事30E-1 502-2013	金称を集の場合: - 10-10-20-20 「	工事開始前及び工事中 1 回/年以上。	・小規模工権会・フェ推当の必能併置が300%を消費が 場合は工権制にとの実験。またレディーミクス・ コンタリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工権とは、以下の工権を除く工能とする。 (係合、機制、核類(排析打核、井陽基等等)、機能 上出工(将、床板、高線等)、実際工(第2十四、上)、 山東工、機門、機管、トンペ、線像、その水、線像、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	0
		を使用するを	その他	塩化物給量契制	「コンクリートの耐久性向上」仕様者	200, 100, 100, 100, 100, 100, 100, 100,	コンクリートの打造が年前と年後にまたがる場合 は、金値に、即コンクリート打造側に行い、その は、年後に、即コンクリート打造側に行い、その に、年後の影響と容勝することができる。(1)試 のの設定開設は細とする)試験の判定は1回の測 定値の平均値。	・小塚原工程をでしま報当りの総使用意がの可求機の 場合は江北種間以上の開発。またはレディーミクスト コンタリート工程を入める直接到書をかんとすることがで さる。1工程当たりの総使用最が50m以上の場合は、 の同ごとに国の影をを行う。・・青村に高砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イナ と合有が解析的」(以近で302-2018、503-2018)を ・一月に郵助等を有さない無筋構造物の場合は看粉でき 。一月に郵助等を有さない無筋構造物の場合は有粉でき 。か小坂原工程とは、以下の工程を除く工程とする。 (機会、機関、化関、保育、保育、集団工(係とは以 上部工 代、探探、筋構的、無型工(係とは以 上部、代、探探、筋構的、機能、工程を除く工程といる。 1、高度工、機門、機管、水平、水解(中枢・公路) れらに類する工程及び特定化様券で指定された工程)	
				スランプ試験 (モルタル徐く)	115 A 1101	スランプSea以LbSeaを開 : 青春遊生1. Sea スランプSea以上BSea以下: 青春遊生2. Sea	・飛翔に非 1807日は1、最高物の重要度と工事の規模に応じ で2006 ⁷ 〜1508 ¹² ごとに1回、及び検別し時に品質変化 が認められた時。	小原原工程をついままりの世代目录が500米書の 場合は工種組の上の登集。またレディー・3.2・メ コンクリート工館の品質証明書館のみとすることがで まる。1工程度と500世紀間が500以上の場合は、 500ごとに1回の影響を行う。 赤小規模工権については、塩化物総量規制の項目を参 用	
			必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木李会規學JSCE F561-2013	3本の機度の平均値が材敵28日で設計強度以上とする。	次付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工 幸で使用するのとはコンクリート(セルタル) を吹付け、現場で3日美生し、底柱56mmつコアを が取りキャッピングを行う。原刷として1回に3本 とする。	・小規模工種奈で1工種当りの総使用量がSou [†] 未満の 場合は1工種1回以上の整整、またはレディーミクスト コンタリート工業の血管取用業がSou [†] 以上の場合は、 50。ことに1回の影響を行う。 本小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参 用	
			その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5x (非客僚)	・荷賀し勢 1回/日北上、秀造物の重要度と工事の規模になじ で300〜1500〜1500〜1500〜1500〜1500〜1500〜1500〜1	・小規模工程をで1工権当りの総使用量がSou*未満の 場合は1工権1回以上の契略、またはレディーミクスト コンタリートに関係の高度短用量が5m以上の場合は、 5m。ごとに回り取機を行う。 Sou ごとに回り取機を行う。 各小規模工権については、塩化物総量規制の項目を参 照	
				コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	高質に異常が認められた場合に行う。		
23 現場吹付	法棒工	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	アルカリ州村反応期別資 について、「年後14年7月 31日付け国管技第112 分、国港順第35号、国空建 第78号)」	前左	管材類を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び電地が変わった場合。		0
(次頁に続く))								

			ı		品質管理基準及び規格値 I		ī	試験成績
工種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	掎 要	表等による確認
23 現場吹付法枠工	材料	その他 丁ISマー	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1∼5 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び避地が変わっ た場合。		0
		ク表示されたレディーミクストコ	青材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5011 JIS A 5021	遊・成園度:2.5以上 総幹材の股大車:3.5%以下 指骨材の股大車:3.5%以下 (認等・計会、高原スラグ等付表、ブェロニッケル ステブに指令者、原スラグ維育材の販格値について は調整を参加		JIS A 5005 (コンクリート用鈴砂及び発音) JIS A 5011- (コンクリート用スラグ青日 - 第1 部: 高炉マスケ青料 1 部: 高炉マスケ青料 1 列 - 1 月 - 1 月 - 1 月 - 1 日 -	0
		ンクリートを使用する場合は除く)	容材の機能分離試験	JIS A 1105 JIS A 5005 JIS A 5008	田香村 20%以下(ただし、転形判定実績率が58% 以上の場合は5.0%以下の ステラ州春村 5.0%以下 27月春村 5.0%以下 6.0%以下 (ただし、キリーリー・アーリー・アーリー・アーリー・アーリー・アーリー・アーリー・アーリー	正本時時前、正事中1回/月以上及び境地が変わった場合。 に場合。 (山谷の場合は、工事中1回/週以上)		0
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色上り扱いこと、濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	劇い場合は、JIS A 1102 「有様不秘物を含む様骨材の むわり圧縮強度による試験方法」による。	0
			モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	維骨材:1.0%以下 粗骨材:0.2%以下	工事関始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			磁酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	期骨材: 105以下 租骨材: 125以下	砂、砂利: 工作開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び癌地が変 ためた「場合。 工事開始前、工事中1回/年以上及び癌地が変わっ 工事開始前、工事中1回/年以上及び癌地が変わっ た場合。	場合地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 6211 (高野セメント) JIS R 6212 (ウリカセメント) JIS R 5212 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始的、工事中1回/月以上		0
			ポルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202	JIS 8 2010 (ボルトランドセメント) JIS 8 2011 (高炉セメント) JIS 8 2012 (ファイアント) JIS 8 2012 (ファイアッシュセメント) JIS 8 2014 (エコセメント)			0
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5308附属書C	軽適物質の量: 22/以下 部解性無実視的の量: 12/以下 塩化物イナン量: 200pm以下 セメントの連結時間の差: 96受は30分以内、終結 は260分以内 モルタルの圧縮強度比: 材削7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。	上水道を使用している場合は球熱に換え、上水道を使 用していることを示す資料による確認を行う。	0
				回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イナン量: 200ppm以下 セメントの基結時間の差: 始発は30分以内、終結 は260分以内 モルタルの圧縮強度比: 材輸7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。 た場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	その原木は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0
	ストコンクリーS	超額	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	0
	トを使用する	*	租骨材の表面水率試験 計量設備の計量精度	JIS A 1125		1回/日以上 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録に	0
(次頁に続く)	場合は除く)	他			东: 土1%以内 セメント: 土1%以内 骨材 : ±3%以内 腸和材: ±3%以内 (高原スラグ報約束の場合は±1%以内) 廃和剤: ±3%以内		上り確認を行う。	0

					品質管理基準及び規格値	T		試験成績
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	表等による確認
23 現趣吹付法棒工	クリートを使用する場合は除く)製造 TISマーク表示されたレディー。	その他	ミキサの練器が性能試験	バッチミキウの場合: JIS A 180 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 運搬ミキサの場合: 土水学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリートの確認せ盤 コンクリート内の配骨材料の個数率: 8%以下 田田線度の個数率: 7,7%以下 エンクリート内の配骨材料の個数率: 8%以下 エのクリート内の配骨材料の個数率: 10%以下 コンクリート内の配金数の機器率: 10%以下 コンクリート中の表面の概念率: 15% 以下 コンクリート中の単位配常材製の数: 5%以下 に関連要差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下 定列機度差: 7,5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。	・小坂原工権会・フ工権当りの急使用量が50%未満の 持合は工権制に以上が募集。またレドディータスト コンクリート工場の品質証明書等のみとすることがで さる。 か、現代工程とする。 は、以下の工業を除く工程とする。 (報力、機能工程となる。 は、以下の工業を除く工程とする。 は、以下の工業を除く工程とする。 (報力、機能工程となる。 、高等等等)。 地質、は同び工程となる。 、同様で、表現、 、同様で、表現、 、表現、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	
	ミクストコン施工	その他	スランプ試験 (モルタル館く)	JIS A 1101	スランブ差: 3cm以下 スランブScm以上8cm以前: 許容差±1.5cm スランブScm以上18cm以下: 許容差±2.5cm	・疾師に時 1837/日以北、精盗物の重要度と工事の根柢に応じ 7000~1505ととに旧、及び奇抑し時に品質変化 が張かられた時。	・小板板工程会で1.1種当りの較板用度が50m ² 末濃の 場合は1.1種目以上の2種。またはレディーネクスト コングリートは2000金巨銀用着が50m ² 以上の場合は、 50m ² ことに回りの影板用度が50m ² 以上の場合は、 50m ² ことに回りの影板を行う。 そか小坂工程とは、以下の工程を含く工程とする。 (機会、機果、4種、6種がは、50m ² は、12年とする。 し、河低工、個門、4種、6年では、大路(54年と し、河低工、個門、4種で、4年では、2年では し、河低工、個門、4種で、4種で、4種で、4種で、4年で は、5年で、4種で、4年で、4年で、4年で 1.5年で、7年で、4年で、4年で、4年で 1.5年で、7年で、4年で、4年で、4年で、4年で 1.5年で、7年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4年で、4	0
		必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規模JSCE-F561-2013	設計図書による	旧画本 実付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠にエ 事で使用するのと同じコンクリート(キャタル) を受けれ、発電で日本以でおける最大の。 のの、2000年では、大学では、1回に4年 (aで~3本、a28~3本、)とする。	・参考値:188/m²以上(材能28日) ・小規模工種法で1工種当りの総使用量が50m²未満の 場合は11種目的以上の基礎、またはレディーミクスト コンフリートは動画の直接到博物が入上であるとが、 さる。11種当たりの総使用量が50m以上の場合は、 50m²と上に回り転巻で行う。 ※ごとに回り転巻で行う。 ※小規模工種については、スランプ試験の項目を参照	
		その他	塩化物総量規制	Tコンクリートの耐久性向 上」仕様書	9539(0.3kg/a352) F	コンクリートの打政が午前と午後にまたがる場合 は、年前に1回コンクリード打政制に行い、その は、年前に1回コンクリード打政制に行い、その は、日本の企業を受ける。 は、日本の企業を受ける。 後の制定回数は3回)試験の判定は3回の制定値 の平均値。	・小規模工程学で1工種当りの総使用量がSou ¹ 未満の 場合は11種1回以上の2種株、またはレディーミタスト コンタラートは初めの高度製用等がの入とすることがで さる。11種当たりの総使用量がSou ¹ 以上の場合は、 がインストラールでは、12世紀代紀代は、12世紀では、12世紀では、12	
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	二1.6%(許容胜)	- 青期し時 1回/日以上または構造物の重要度と工事の規模に 応じて20m ² -15m ² ごとに1回、及び青卸し時に品質 東化が認められた時。	・小坂様工権会で1工権当りの総使用量が50m*未満の 場合は11種目的以上の対略、またはレディーミクスト コンクリート工権の品質取用書が50m*以上の場合は、 56、17世当たりの総使用量が50m*以上の場合は、 50m*ごとに1回の影像を行う。 安小坂様工権については、スランプ試験の項目を参照	
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引 抜試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。		
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
24 河川土工	材	W.	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
	料	须	L. m. etc (das-ben).	TIC 4 1004	90,941(27/8H) - 1- 2- 7	Wanted Transfer		
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の含水比試験	JIS A 1203				
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205				
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216		必要に応じて。		
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説				
			土の圧密試験	JIS A 1217				
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説				
			土の透水試験	JIS A 1218				
(次頁に続く)								

	4	44***		l	品質管理基準及び規格値			試験成績
工種	利	試験 区分	試験項目	試験方法	規格值	試験基準	摘 要	試験規模 表等によ る確認
24 何用土工	施工	必須	現場密度の測定 炎右記試験が1.3種類)のい ずれかを実施する。	最大院任务 55mm: 沙壓廣连(1月5 A 1214) 砂壓廣连(1月5 A 1214) 最大院任务 55mm: 油裝頭蓋・軟験法便覧 [4] 突移法	基大産機需度で90以上。 ただし、上記に、最初場合は、動和度または空 気間障率の規定によることができる。 日春日 仁然のようにあるためを総分で500】 空気間障率が30以上156 【結社上 (60% ようによる)・通過分 】 動和地数・30% よいならり、 またに設計域書による。 または設計域書による。	福度は、1,00m/に1回の前分、または最終最終の に3回の前分の対。 1回の対象につき3社で前定し、3社の平均値で判定 を行う。	・左記の規格を満たしていても、規格権を著しく下 回っている点が在した場合は、監督員と協議の上 で、 (等) 転圧を行うものとする。	
				表たは、 国は計画を用いた盛士の網盟 の管理要類(家)」による。	語資単位の現構技能高度の平均値が最大変温度高 度の90%以上。 ただし、上記しより職い場合は、熱和度または空 気間原本の現実によることができる。 日春世 仁然が、天下のよろい場面分・50%)】 空気間障率があがなこちが、 日春社 た然が、大下のよろい場面分・30%) 記載社に低います。から、中国のようい場面が、 別様社に低います。から、中国の になった。 大学ないまないまた。 大学ないまたた。 大学ないまた。 大学ないななななななななななななななななななななななななななななななななななな	施士を管理する単位(以下「管理単位」)に分割 して管理単位でとに管理を行うものとする。 整理は、11日の運動とりの施工部のを、圏をする。 を理理仪の運動は、150%を構造し、11日の 工工部的2、00%上の場合、その歴土の建立を構造し、11日の 単位以上の割するものとする。1管理単位あたり の施定点数の目をとび下に示す。 500%上は100%未満:10点 1100m ² 以上2000m ² 未満:15点	・表大経路<100mmの場合に適用する。 ・左応の現路線を満たしていても、現路線を著しく下 回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上 で、(再)転任を行うものとする。	
				または、「TS・GSSSを用いた 盛土の締固め管理要領」によ る	第工範囲を小分割した管理プロックの全てが規定 開放だけ締め曲かられたことを確認する。	1. 整土を管理する単位(以下「管理単位」)に 分削して管理単位総に管理を行う。 2.1日の加工が整理を を登録機能と応募したよう場合でも1管理単 位金を整備性とためらせることはしないものとす 3.上版り場の状況や土質状況が表わる場合に 1. 新規の管理単位として取り扱うものとする。		
		その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。	含水比の変化が認められたとき。		
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -273		トラフィカビリティが悪いとき。		
25 海岸土工	材料	多額	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
		そ の 他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土粒子の密度試験	JIS A 1202				
			土の含水比試験	JIS A 1203				
	材料		土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。		
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216		必要に応じて。		
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説				
			土の圧密試験	JIS A 1217				
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説				
			土の透水試験	JIS A 1218				
	施工	€ 31	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類) のい すれかを実施する。	最大粒径 5 5 3 m : 砂置接法 (JIS A 1214) 最大粒径 > 5 3 m : 軸坡爾廷 · 政験法便覧 [4] - 256 突砂法	最大乾燥密度の85以上。または設計図書に示された値。	築場は、1,000m ² に1回の割合、または単体を展20m に3回の割合の対。別連載度の高かって実験する。 1回のが繋につき3孔で制定し、3孔の最低値で 利定を行う。	・左思の規格報を満たしていても、現務報を著しく下 回っている点が存むし、場合は、監督員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとする。	
				または、 宮田井器を用いた盛土の締囲 め管理要領(梁)」による。	「適番単心の規模性無数での平均値が最大收集校告 仮の90以上、 または、設計図書による。	基土を管理する単位以下「管理単位」)に分割して 管理機位とにど配合でうちのとする。 場場は、18の1層かたりり効果工頭得を基度とす。 を登場している。 第二項前次に600m以上が場合、その第工面積を交 第二項前次に600m以上が場合、その第工面積を 9、9の間が支援の目をを以下に示す。 ・5000m以上1900mが表現。15点 ・1000m以上2000mが表現。15点	・最大院医<100mの事分と連用する。 水型の規格を構造していても、規格値を着しく下 頭っている点が存在した場合は、監督員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとする。	
				または、「TS・GNSSを用いた 盛上の締固め管理要領」によ る	施工機関を小分割した管理プロックの全てが規定 開放だけ締め締められたことを構造する。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に 分削して管理単位制に管理を行う。 ・1 10 回転上が影響性と次半的でする。 を表現しまなからせることにしないものとする。 を表現しまなからせることにしないものとする。 は、主取り場の大型で大型質形が多と動会には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
		そ の 他	土の含水比試験	JIS A1203	設計図書による。	含水比の変化が認められたとき。		
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] - 273		トラフィカビリティが悪いとき。		
1		I	l	<u> </u>	İ	İ		1

	品質管理基準及び規格値 - 試験 は は は は は は は は は は は は は は は は は は								
工種	利	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績 表等によ る確認	
26 砂防土工	材料	必須	土の締留め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。			
	施工	必須	環場密度の商生 率右配映数: (3種類) のい ずれかを実施する。	最大較怪系65mm: 砂塵換接。[15 A 1214) 最大較怪>53mm: 越坡遊遊。即棟法便覽 [4] - 25m 安砂法	最大税権密度の80%以上。または設計領書に平され た他。	1周の対象につき3和で創定し、3私の最低値で判定 を行う。	左記の原格権を耐たしていても、現格権を著しく下 回っている点が存在した場合は、監督員と協議の上 で、(再)転任を行うものとする。		
				または、 では計器を用いた盛士の韓國 め管理要領(策)」による。		版上館時次(600以上90場で、その第上館時空 情報を促送したらかするのとする。 管理単位あ 1987年 1	・最大応答く100msの場合と連用する。 ・な起の場構を構造していても、規格値を著しく下 一般が表現が発生した場合は、監督員と協議の上 で、(再)転圧を行うものとする。		
				ŏ		1. 強上を管理する単位(以下「管理単位)) に 発制、で管理単位に管理を行う。 2. 1日の施工が接載層に表示場合でも1管理単 心を接載層によかせるとはたいものとす。 3. 上版り場つ状況や土質状況が実わる場合に 2. 新規の管理単位として取り扱うものとする。			
27 道路土工	材料	必須	上の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	新初及び土質の変化した時(材料が岩砕の場合は 除く)。 ただし、法面、路屑部の土量は除く。			
			CBR試験 (路床)	JIS A 1211		当初及び土質の変化した時。 (材料が岩砕の場合は除く)			
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。	当初及び土質の変化した時。			
			土粒子の密度試験 土の含水比試験	JIS A 1202					
			上の液性展界・塑性限界試験						
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216					
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説					
			土の圧密試験	JIS A 1217					
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説					
			土の透水試験	JIS A 1218					
(次頁に続く)									

				ı	品質管理基準及び規格値		T	*****
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
27 通路土工	岩 工	必須	周藤原度の測定 公本在記録数では「種類」のい すれかを実施する。	為大政任务58mm: 如置換法(15 A 1214) 最大股任务58mm: 維於兩性,必要法便覧 [4] — 突砂法	「毎年11 - 一条件: 大水産業の (1987年) - 一条件: 大水産業の (1988年) (198	部体の場合、1,000mil-2の主 目的の指令で行う。た にし、5,000miを持つ工事は、1工事者との認成 上。 起来及び構造物取付け部の場合、500mik-つき1回 の指令で行う。たどに、1,500mi未満の工事は1工 目前の実験につき3礼で測定し、3礼の最低値で判定 を行う。		
				または、 「紅眉橋を用いた盛士の郷園 の香港要領(第)」	「砂茂」 「お客店」への報用かが可能な報酬の含水 「路路」と、の窓底、の網開かが可能な報酬の含水 「路路」と、「接電単位の現場接越電電でみ下的域が 大大機能を関係ので減少は、「経開から機能 (IIS A 1210) ト 482)。 「新規及「研幕を指している。」 「新規及「研幕を指している。」 「新規及「研幕を指している。」 「新規及「研幕を指している。」 「新規及「研幕を指している。」 「新規及「研幕を指している。」 「新規」といる。「表している。「表している。」 「記述」といる。「表している。「表している。」 「記述」といる。「表している。「表している。」 「記述」といる。「表している。「表している。「表している。」 「表している。「表している。」 している。」 「表している。「表している。「表している。」 「表している。「表している。「表している。」 「表している。「表している。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。「またいる。」 「またいる。」 「	版土を管理する単位(以下)管理単位、に分割して 部開地区では下着地で行うためたける正面積を活 乗せても、管理地での面積は、150mとでは正面積を活 は150mと正面積が2,00mは以上の場合、その地工面 は150mと正面積が2,00mは以上の場合、その地工面 を管理単位以上の場合である。1管理 単位かよりの制定地域のは多く以下に示す。 20mmに対し、20mmに対しませないでは一 100mmに対しませない。15点 100mmに対しませない。15点 100mmに対しませない。15点	・最大校様<100mの場合に適用する。 ・な記の規格機を調定していても、現格機を著しく下 のでは、現格機を調定していても、現格機を著して下 で、 (物) 転圧を行うものとする。 ・	
				または、「TS・GSSを用いた 度土の縁因め管理要領」によ る	施工範囲を小分割した管理プロックの全てが規定 回数だけ締め限められたことを確認する。	1. 盛上を管理する単位(以下「管理単位」)に 分削して管理単位はに管理を行う。 2. 1日の重工が接受着によが場合でも1管理単位を検索制によったりできたされないものとす。 3. 上取り場つ状況や土質を成が振わる場合に 2. 新規の管理単位として取り扱うものとする。		
			ブルーフローリング	舗装開査・試験法便覧 [4] - 288		路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。 た だし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除 く。	・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等 以上の瞬間効果を持つローラやトラック等を用いるも のとする。	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215		各車線ごとに延長40mについて1ヶ所の割で行う。	・セメントコンクリートの路盤に適用する。	
			現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。	各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。		
(次百に終く)			含水比試験	JIS A 1203		語体の場合、1,000miにつき1回の割合で行う。た だし、5,000mi未満の工事は、1工事当とり項以 上。 販水の場合、500miにつき1回の割合で行う。ただ し、1,500mi未満の工事は1工事当たり3回以上。		
27 道路土工	施工	そ の 他	コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] - 273	設計図書による。	必要に応じて実施。 (例) トラフィカビリティが悪い時		
			たわみ量	結抜調査・試験法便覧 [1] - 284 (ペングルマンピーム)		ブルーフローリングでの不良箇所について実施		
28 拾 任工	范 工	必須	岩石の見帯社重 岩石の吸水率 岩石の圧縮強さ	JIS A 5006 JIS A 5006 JIS A 5006	設計図書による。	原期として癌地梅に当初及び岩質の変化時。	- Somally F1監督機携末指を得て有略できる。 ・ 参信 : 別2.7 E/c/a ² ~2.5 g/cal ・ 海電石 : 別2.5 c/a ² ~2.5 c/cal ・ 横石 : 別2.5 c/a ² ~2.5 c/cal ・ 横石 : 別2.5 c/a ² ~2.5 c/cal ・ 接石 : 別2.5 c/a ² ~2.5 c/cal ・ 接石 : 別2.5 c/a ² ~2.5 c/cal ・ 海(石 : 以2.5 c/cal ・ 海(石 : 以2.5 c/cal ・ 海(石 : 以2.5 c/cal ・ 本)他 : (以2.5 c/cal ・ 海(石 : 以2.5 c/cal ・ 第(石 : 以2.	0
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	うすっぺらなもの、柳長いものであってはならな い。	5,000m'につき1回の割合で行う。 ただし、5,000m'以下のものは1工事2回実施する。	500m ² 以下は監督員承諾を得て省略できる。	0

					品質管理基準及び規格値 			試験成績
工種	利	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	表等による確認
29 コンクリートダム	材料 ①ISマーク表示	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	「アルカリ青村反は前期対策 について」(平成14年7 31日付け国官技第112 9、国連職第35号、国空継 第78号)」	间左	音好(集)を行う場合は、工事開始前、工事中11回/ 6ヶ月以上及び客地が変わった場合。		0
	されたレディーミクストコンクロ	その他	存材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5001-1~5 JIS A 5021	総教護度: 2.5以上 (成本: [2013/4年記1コンクリート標準示方書ダ ムコンクリート欄による。	工事等結前、工事中1回/月以上及び産地が変わっ た場合。	IBA 8 0005 (コンクリート用等砂及び寄む) IBA 8 5011-(コンクリート用スラグ青村 - 第 1 郎: 高原スラグ青村 - 第 2 郎: ニーステング青村 - 第 2 郎: ニーステング青村 - 第 2 部: コーステング青村 - 第 2 部: コーステング青村 - 第 3 部: 第 3 部: コーステング青村 - 第 3 部: 第 3 部: コーステング青村 - 第 3 部: 第 3 部: コーステング青村 - 第 4 部: 電気を開発スラグ青村 - 第 4 部: コーステング青村 - 第 4 部: コーステング青村 - 第 4 部: 電気を開発スラグ青村 - 第 4 部: 電気を開発スラグ青村 - 第 4 部: 電気を開発ステング青村 - 第 4 部: コーステング青村 - 第 4 部: コーステングーステングーステングーステングーステングーステングーステングーステング	0
	リートを使用する場合		容材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
	合は除く)		セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5212 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
			ポルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202				0
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より赤いこと、濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。		銀い場合は、JIS A 11位「存接不続物を含む相挙材の たが8圧縮強度による試験方法」による。	0
			モルタルの圧縮強度による砂の試験		圧縮強度の90%以上	訴料となる毎の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0
			骨材の機能分量試験	JIS & 1103	相様性1.0%以下、ただし、発音の場合、機能力以下、 超試験で失れなものが砕石物のとさには、3.0% 以下、 場合は、これのは、ただし、すりへり作用を受ける場合 は、のがは下、機能の重要率で失れなものが砕 石物であって、粉土、シルトなどを含まないとき にはのが以下、ただし、同様の場合で、すりへり 作用を受ける場合は5.0%以下。	工事解析版、工事中1回/月以上及び避免が変わった場合。 (山巻の場合は、工事中1回/週以上)		0
			背材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	維骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.2%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
	材料 丁ISマーク表示な	その他	繊酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	解骨样:105以下 机骨材:125以下	応、6月: 工事制始前: 工事中国/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 参称: 森谷: 工事開始前: 工事中国/年以上及び産地が変わっ た場合。	場合地で確請のおそれのある地点に適用する。	0
	衣示されたレディーミ		租骨材のすりへり試験	JIS A 1121	40%EX F	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。		0
	クストコンクリートを使用する		練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	転換時度の業: 2c/L以下 解析性無発度的要素: 1c/L以下 塩化砂イン・煮: 30%pa以下 塩化砂イン・煮: 30%pa以下 塩化砂イン・煮: 30%pa以下 売からからからからからが、 セルタルの圧縮強度比: 材削7及び28日で90%以上	工事等時前, 工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。	上水道を使用している場合は球動に換え、上水道を使 用していることを示す資料による確認を行う。	0
(次質に続く)	場合は除く)			回収水の場合: JIS A 5308附属書C	版化物イオン賞: 2009ym以下 セメントの経緯時間の差: 特発は30分以内、終結 1800分以内 セルクルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/平以上及び水質が変わっ た場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	その原木は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	品質管理基準及び規格値 ^{規格値}	試験基準	摘 要	試験月表等に
29 コンクリートダム	⟨製	その	計量設備の計量精度	 	水: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材: ±3%以内	設計図書による。	レディーミクストコンクリートの場合、印字記録によ り確認を行う。	る確
	9	他			骨材 : ±3%以内 混和材: ±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内)			
	ラン				混和剤: ±3%以内			0
) T							
	I S		ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合: JIS A 1119 TIS A 9602-1	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合: コンクリート内のモルタル量の偏差率:0.8%以	工事開始前及び工事中1回/年以上。		
	マーク			JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	下 コンクリート内の租骨材量の偏差率:5%以下			
	表示さ				圧縮強度の偏差率: 7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率: 10%以下 コンシステンシー (スランプ) の偏差率: 15% 以下			0
	れ た レ				W.L			
	ディー							
	2			連続ミキサの場合: 土木学会規準JSCE-I 502-201	コンクリート中のモルタル単位容積質量差:0.8% 以下 コンクリート中の単位租骨材量の差:5%以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。		
	トコ				圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下			
	ン ク リ				スランプ差:3cm以下			C
	 - - -							
	使用す		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	
	る場							С
	合は除							
			租骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		
								(
	施工	額	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向 上」仕様書	原則0.3kg/m3以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合 は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その 試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の 場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスト コンクリート工場の品質証明書等のみとすることがで	5
						は、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。	さる。1工種当たりの総使用量が50m ³ 以上の場合は、 50m ³ ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオ	
							ン含有率試験方法」 (JSCE-C502-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。	
							※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁	ž.
							(間日、間間が、50mm(40円)10元、対同器監守が、10mm 上部工(桁、床版、高欄等)、旅壁工(高さ1m以 上)、両奨工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0mL 上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他こ れらに類する工種及び等記仕様書で指定された工種)	Į.
							れらに類する工種及び特配仕様書で指定された工種)	
			単位水量測定	[108] 1-3 /17 -11 /11 -	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/miの範	100㎡/日以上の場合:	示方配合の単位水量の上限値は、租骨材の最大寸法が	
			平区小里例た	「レディーミクストコンクリー ト単位水量測定要領(案)(平 成16年3月8日事務連絡)」	・囲にある場合はそのまま施工してよい。・別 別定! た単位水量が、配合的計+15km/wiを超	100m/日以上の場合: 2回/日 (午前1回、午後1回) 以上、重要構造物 の場合は重要度に応じて100㎡~150㎡ごとに1 回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときと	- 不方配合の単位水重の上版画は、程刊がの収入寸伝が 20mm~25mmの場合は175kg/ml、40mmの場合は165kg/m を基本とする。	î
					ス±20kg/mlの範囲にある場合は、木量変動の原因 を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運 策車の生コンは打散する。その後、配合設計士 15kg/ml以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1	回、及び背卸し時に品質変化が認められたときと し、測定回数は多い方を採用する。		
					15kg/㎡以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1 回、単位水量の測定を行う。 なお、「15kg/㎡以内で安定するまで」とは、2回 連続して15kg/㎡以内の値を観測することをいう。			
					連続して15kg/㎡以内の値を観測することをいう。 3) 配合設計±20kg/㎡の指示値を越える場合は、 生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原			
					因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなけ ればならない。その後の配合設計±15kg/ml以内に なるまで全運搬車の測定を行う。			
					なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合 は1回に限り再試験を実施することができる。再試 験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設			
					駅を実施した場合は2回の両足和来のうち、配合奴 計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。			
			スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm	・荷卸し時 ・1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模の	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m未満の 場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクスト	
						応じて20㎡~150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	コンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、 50㎡ごとに1回の試験を行う。	
							※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (権台 格脚 結類(場所打結 井筒基礎等) 様々	A.
							上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以 上)、面渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以 上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他3	Į.
							れらに類する工種及び特配仕様書で指定された工種)	
7001 = 0 di Z \								

					品質管理基準及び規格値			
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
29 コンクリートダム	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	主1. 55 (評容盈)	・荷加上寺 ・一回/日以上、構造物の重要度と工事の規模の 応じて20㎡〜150㎡ごとに1回、及び荷和し時に品 質変化が認められた時。	・小板原工権会で1工権当りの総使用量が50m未満の 特合は1工種10m1との対象。また1レディーミクスト コンクリート工場の品質証別書等のみとすることがで 56、1工権当たりの総使用量が50m1上の場合は、 50m1上に1回の対象を行う。 50m1上に1回の対象を行う。 (鑑会、機調、総額、(総再打核、非衡基高等)、機能 上形工 (将、床板、高等等)、接収工 (高を1m1 上別、原本、人及び第、トンネ、海峡、不砂底、	
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	(a)圧縮強度の反映性が、設計基準強度の80%を 1/20以上の確定で下回らない。 (b)止縮減度で発起が、設計基準強度を1/4以上 の報率で下回らない。	1回3・11・10・20十二番500m3大浦の場合は「ラナリ 1・15・10・20十二年 10・20 11・20 11・20 11・	上)、護岸、ダム及び場、トンネル、薄原、その他これらに繋する工権及び特定仕様舎で指定された工権)	
			温度測定(気温・コンクリー ト)	温度計による		1回供試体作成時各7°=>>打込み開始時終了時。		
		その他	コンクリートの単位容積質量 試験		設計図書による	1回2ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。	参考値:2.3t/m以上	
			コンクリートの洗い分析試験 コンクリートのプリーディン			1回 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。 1回1ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に		
			グ試験 コンクリートの引張強度試験	JIS A 1113		行う。 1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。		
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106		1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。		
30 寝エコンクリート (NATM)	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	「アルカリ骨材反応抑制対策 について」(平成14年7月 31日付け国官技第112	阿左	常材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		
	丁ISマーク表			号、国港環第35号、国空建 第78号)」				0
	(示されたレデ.	その他	背材のふるい分け試験	JIS A 5005 JIS A 5005 JIS A 5011-1∼5 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わっ た場合。		0
	- ーミクストコンクリートを使用		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-~5 JIS A 5021	総務部度: 2.5以上 動作材の股大車: 3.5%以下 動作材の股大車: 3.5%以下 動作材の股大車: 3.5%以下 の大力を が成立した。 なのようで が成立した。 がなる。 がなる。 がな。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がな。 がなる。 がな。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がなる。 がな。 がな。 がなる。 がな。 がな。 がなる。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな。 がな	工事等動館、工事中1回/月以上及び恋地が変わっ た場合。	JBA 5 8056 (シナナ・用帯砂及び砕石) 13 A 5011-1 (シナナ・用おけ・青柱・高 2 部: 2 番を 7 まで 7 青柱) 対け	0
	する場合は除く)		租骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	多-在-100以下 89-和35%以下	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回 /月以上及び産地が変わった場合。		0
			骨材の機能分量試験	JIS A 1100 JIS A 5005 JIS A 5099	租舎計 3.0%以下(ただし、転形判定実績率が58% 3.0%以下(ただし、転形判定実績率が58% ステク相合材 5.0%以下 それ以外 (6种間) 1.0%以下 場合は 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける 4.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける 4.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は 5.0%以下 (ただし、すりへ)作用 を受ける場合は 5.0%以下 (ただし、すりへ) 作用を受ける場合は 5.0%以下)	工事開始前、工事中1回/月以上及び連地が変わった場合。 (山巻の場合は、工事中1回/週以上)		0
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	以上の場合は使用できる。		濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む提骨材の 1696圧縮強度による契製方法」による。	0
			モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0
(次頁に続く)			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細管材: 1.0%以下 租管材: 0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		0

				1	品質管理基準及び規格値			
工 種	種 別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
30 双 エコンクリート (NATM)	材料 丁ISマーク	その他	硫酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 租骨材:12%以下	診、砂村: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 谷砂、砕石: 工事中1回/年以上及び産地が変わっ た場合。	薬冷地で確認のおそれのある地点に適用する。	0
	,表示されたレディ-		セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 8211 (高原セメント) JIS R 8212 (シリカセメント) JIS R 8212 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
	ーミクストコンクリ		ボルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202				0
	ートを使用する場合は		練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5308附属書C	転激物質の量: 26/1以下 部解性原発性的の量: 1g/1以下 塩化物・オン量: 200pm以下 セメントの部結時間の差: 始発は30分以内、終結 は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。	上水道を使用している場合は延繋に換え、上水道を使 用していることを示す資料による確認を行う。	0
	除 ()			回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、終結 は50分以内 モルタルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合 た場合 スラッジ水の濃度は1回/日	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定に 適合するものとする。	0
	製造 プラント)	その他	計量設備の計量精度		末: ±1%以内 セメント: ±1%以内 育材: ±3%以内 湯和材: ±2%以内 (高炉スラグ動かの場合は±1%以内) 濃和剤: ±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	レヴィーミクストコンクリートの場合、印字記録により 確認を行う。	0
	丁ISマーク表示されたレデ		支キサの神混ぜ性能試験	バッチミキサの場合: JIS A 1199 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの補限任業 会外容量の増与: コンクリート内の走り水の重要を重:5%以下 エンクリート内の最早材をの個を車:5%以下 正確地度の開選率:7.5%以下 コンクリート内空変量の整要率:10%以下 コンンステンシー (スランプ) の偏差率:15% 以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。		0
	イーミクストコンクリー	イーミクストコンク		連続ミキサの場合: 土木学会規準JSCE-I 502-2013	ニンタリート中のモルタル単位容積質厳意: 0.8% 以下 ニンクリート中の単位性制料量の差:5%以下 圧積機度差:5%以下 差気量差:1%以下 スランブ差:3cm以下	工事開始前及び工事中 1 個/年以上。		0
	- トを使用する場		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	0
	合は除く)		祖骨材の表面水率試験	JIS A 1125		1回/日以上		0
	施工	湖	スランプ試験	JIS A 1101	スランプScm以上Bcm末週 : 許容差±1.5cm スランプScm以上Bcm以下 : 許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ で20㎡〜150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変 化が認められた時		
			平位水量測定	「40学 (エーリストロンタ)」 ・程心を推動で乗り、(家) (平 ・現心を開いませる。 (現16年3月8日等称連載)」	前度と大事を水差が、配合設計と15以の面の範 組)を高差的とからま業地上で15以の面を 20 測定した単位水量が、配合設計と15以の面を を開発し、担立と製造者に必要を指示し、その理 無効がしてコンド型でする。での、配合設計と 15以の面が大力では下する。での、配合設計と 15以の面が大力で送ぎすると、連携帯のが活動に 15以の面が大力で送ぎすると、連携帯のが活動に 15以の面が大力で送ぎすると、連携帯のが活動に 15以の面が大力で送ぎすると、連携帯のが活動に 20、15以の面が大力で送ぎすると、とない。 連続して15以の面が内で送ぎすると、一般で 連続して15以の面が一位の表である場合は、 生コンを打込まずに、持ち場のは、水産電動の面 を回復をし、生コンを打込まずに、持ち場のは、水産電動の面 は20、適定は15以の面が高速をしまったが とは、適定は15以前を上が成っ面が には、適定は15以前を は20以下が多く は20以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多く は30以下が多り、配合設 は40以下が多り、配合設 は40以下が多り、配合設 は40以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合設 は50以下が多り、配合 は50以下が多り、ことが は50以下が多り、配合 は50以下が多り、配合 は50以下が多り、配合 は50以下が多り、配合 は50以下が多り、 は50い下がを は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は50い下が は5	10回/「包以上の場合: 2001/「包以上の場合: 2007/日(中部山、 一枝1回)以上、重要構造物 の場合は重要模に応じて10回一15回点ごとに1 の場合は重要模に応じて10回一15回点ごとに1 。 及び何期し生品質量が必要かられたときと し、測定回数は多い力を採用する。	示方底の単位水型の上原動は、相等はの最大寸法が 20mm~25mmの場合は178kg/id、40mmの場合は168kg/id を基本とする。	
(次頁に続く)			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の契集結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 あった。 近週の経験結果の平均値は、指定した呼び強度以上 であること。 (回の)契集結果は、3個の供試体の試験値の平均 値)	・荷加し時 1回/日以上、構造物の重要度とエキの規模に応じ 70回~150㎡ととに回、及び荷加し時に高質変 化が認められた時、なお、テストビースは打設場 所では厳し、1回につ26個(σ7・3個、σ20・3 個)とする。	示方配合の単位水量の上接種は、粗骨材の最大寸法が 20mm~25mmの場合は175kg/㎡、40mmの場合は165kg/㎡ を基本とする。	?

		1			品質管理基準及び規格値 T			****
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
30 寝エコンクリート (NATM)	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向 上」仕様書	原則0.3kg/㎡以下	コンタリートの耳形が再発上す他にまたがる場合 は、午前に1回コンタリード打散前に行い、その 実験能形が塩化物能量の影響を関いたり下の場合 は、午底の試験を各略することができる。(1 試 映の間に関数は3回とする)試験の判定は3回の間 定値の平均値。	・青年に高砂を使用する場合は、「高砂の塩化物イナン含有率試験方法」(JSCR-CS02-2018, 503-2018)または設計図書の規定により行う。	
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (許容差)	・僧卸し時 1回/月以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ で20㎡~150㎡とに1回、及び僧卸し時に品質変 化が認められた時。		
		そ の 他	コアによる強度試験 コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。 1回 品質に異常が認められた場合に行う。		
			22777 1.02004 J. M.	JIS 8 1112		1四 印具に発布が砂りり4のこの口に117。		
	施工後試験	必 須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0. 2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状 没の調査」を実施する。	
			テストハンマーによる強度推 定調査	JSCE-G 504-2013	设計基準強度	トンネルは1打度総分を単位とし、各単位につき の市の遺産を送する。また、調金の無果、平均 総が設計基準機能を下回った場合と、回回の製造 総が設計基準機能を下回った場合と、回回の製造 が設計基準機能を下回った場合と、可の製造 が設計基準機能を下回った場合と、 の箇所の周辺において、再需差を5ヶ所実施。 材齢公日へ91日の間に試験を行う。	病菌をアギ助機が、所定の機を持ちれない場合。 もしくは19所機を移動機が開から8%で同った場 らは、37による機度球験を行う。 工房等により、最終期間やに開査を行えない場合は監 官員と協議するものとする。	
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	似并基準強度	南家の強度を得られない箇所付近において、原位 連のコアを採収。	□ア採取位置、保証体の核を取り仕掛等の決定に新しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討 を行う。 圧縮頻度対象の平均頻度が所定の頻度が得られない場合、もしてはより下のの環境が開始度が設置が展立の影響を が、もしてはより下の環境が設置が戻っる8%を下回っ た場合は、監督員と協議するものとする。	
31 吹付けコンクリート (NATM)	材料	必須	アルカリシリカ反応抑制対策	「アルカリ骨材反広抑制対策 について」(平成14年7月 31日付け国官技第112 5、国海戦第35号、国空曜 第78号)」	阿龙	骨材試験を行う場合は、工事関始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び密地が変わった場合。		0
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	設計図書による。	総骨材は採取箇所または、品質の変更があるごと に1回。 ただし、魔エコンクリートと同一材料の場合は省 筋できる。租骨材は採取箇所または、品質の変更 があるごとに1回。		
		ーク表	骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104				
		示されたレディーミ						0
		・クストコンクリートを	膏材の密度及び吸水半試験	JIS A 1109 JIS A 1110	発乾密度: 2.5以上 維育材の吸水率: 3.5%以下 相骨材の吸水率: 3.0%以下			0
		(使用する場合は除く)	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	服骨付 3.0%以下 (ただし、松帯判定英雄率が88% 以上の場合は5.0%以下) ストリー (大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大阪・大			0
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	福準色より続いこと。濃い場合でも圧縮強度が90% 以上の場合は使用できる。		張い場合は、JIS A 1142「有様不純物を含む紹介材の いりに確強度による契勢方法」による。	
								0
(次頁に続く)			モルタルの圧縮強度による砂 の試験	JIS A 1142	圧縮強度の99%以上	試験となる砂の上部における溶液の色が標準色液 の色より濃い場合。		0

工 種	種	試験	試験項目	試験方法	品質管理基準及び規格値 _{規格値}	試験基準	第 西	試験成績
エ 種 31 吹付けコンクリート (NATM)	別材料	区分 その	試験項目	試験方法 JIS A 1137	規格値 細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	試験基準 細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごと に1回。	摘要	表等によ る確認
(NA130)	ħ	の他 丁ISマーク表			間解析: 0. 2006人下	1-1回。 ただし、概エコンクリートと同一材料の場合は省 略できる。租券材は採取箇所または、品質の変更 ぶあることに1回。		0
		4示されたレディーミ	磁酸ナトリウムによる骨材の 安定性試験	JIS A 1122	報告材:105以下 租舎材:125以下		場合地で複結のおそれのある地点に適用する。	0
		クストコンクリートを	租骨材の粒形判定実績率試験	JIS A 5005	SSXELL:	租舎材は採取箇所または、品質の変更があるごと に1回。		0
		使用する場合は除く)	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 8210 (ポルトランドセメント) JIS R 8211 (高炉セメント) JIS R 8212 (ウリカセメント) JIS R 8212 (フライブッシュセメント) JIS R 8214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
			ポルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202				0
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の 水の場合: JIS A 5308附属書C	転職物質の量:2g/以下 高解性原表性留物の量:1g/以下 高解性原表性留物の量:200pm以下 セメントの最結時間の差:前発は30分以内、終結 120分以内 モルタルの圧縮強度比:対熱f7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は鉄製に換え、上水道を使 用していることを示す資料による確認を行う。	0
				回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量: 200p+m以下 セメントの基結時間の差: 約径は30分以内、終結 1260分以内 モルクルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で90%以上	工事開始前、工事中1回/年以上及び水質が変わった場合 た場合 スラッジ水の濃度は1回/日	その原木は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	0
	製造 プラント)	その他	計量設備の計量精度		末: ±1%以内 セメント: ±1%以内 育材: ±2%以内 簡和材: ±2%以内 (高炉スラグ般的末の場合は±1%以内) 説和剤: ±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録に より確認を行う。	0
	丁ISマーク表示されたレディーミク		ミキサの練混ぜ性能試験	ペックミキサの場合: JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コン カリー トラ練品 仕盤 公称容量の場合: コンタリート内のモルタル量の磁差率: 0.8%以 アコンタリート内の程序材度の磁差率: 5%以下 コンタリート内型水量の磁差率: 15%以下 コンタリート内型水量の磁差率: 15%以下 以下	工事開始前及び工事中 1 回/年以上。		0
	ストコンクリートを使用する			連続ミキサの場合: 土木学会模準JSCE-1 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差: 0.8% 以下 コンクリート中の単位批青材量の差: 5%以下 圧縮減度差: 1.5%以下 受気差ਣ: 1%以下 スランプ差: 3cm以下			0
	場合は除く)		細骨材の表面水率試験 租骨材の表面水率試験	JIS A 1111 JIS A 1125	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	0
			111 市分 少衣園 水平試験	gas # 1129		A may to EALEs		0
	施工	必須	塩化物総重規制	「コンクリートの耐久性向 上」仕様書	原用90.3kg/a35以下	コンクリートの打御が中朝と中報とまたがる場合 は、午前に、国中コンクリー・打政前に行い、その は職権用が強化物能量の規制能力が10倍 は、午後の影響を名略することがごとから は、午後の影響を名略することがごさる。 験の測定回散は3回とする)試験の判定は3回の測 定値の平均値。	 ・青村に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率取壊方法」 (ISCK-C502-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。 	

	T	l	I		品質管理基準及び規格値			試験成績
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験 放積 表等によ る確認
31 吹付けコンクリート (NATIO)	施工	& 31	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE-F561-2013	1回の対験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の対験結果の平均値は、指定した呼び強度以上 であること。 (1回の対験結果は、3個の供試体の試験値の平均 値)	トンネル塩工長40m料に1回 材削7月,28日 (2× 5本候集体) など、テストピース12乗が記憶された壁枠に工事で使用するのと同じコンクリートを 大大付け、現場で7日間及728日間最近後、65mの コアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本 (σ7…3本、σ28…3本、)とする。	・骨財工部を使用する場合は、「商品の塩化物イオークを有事を表現し、「商品の塩化物イオークを有事を表現し、(ISEC-G022-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。	
			吹付けコンクリートの初期強度 (引抜きせん断強度)	引接き方法による吹付けコン タリートの初期強度試験方法 (JSCE-G561-2010)	1日推度でSV/mi以上	トンネル施工長40mごとに1回		
		そ の 他	スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm末浦 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm	・荷和し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡~150㎡とに1回、及び荷卸し時に高質変化が発力した。10㎡とより、及び荷卸し時に高質変化が認められた時。		
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (許容差)	・荷加し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ で20㎡〜150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変 化が認められた時。		
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
32 ロックボルト(NATM)	材料	その他	外観検査(ロックボルト)	・目視 ・ 寸法計測	設計図書による。	材質は製造会社の試験による。		0
	施工	多	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	1) 施工開始前に1回 2) 施工中は、トンネル施工延長50mごとに1回 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回		
				JIS R 5201		1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回		
			ロックポルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引 抜試験」による		掘削の初期段階は20mごとに、その後は50mごとに 実施、1 断而当たり3本均等に行う(ただし、坑 口部では両側墜各1本)。		
33 路上岸生粉館工	材料	必須	69 E C BREATH	請扶班查・試験扶师管(4)− 68	69 E-08020542 E-	・中度模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規度以上の工事とは、予照回を指かた上での管理が示する場所と工事とい、動物施工運搬が10,00回番からいは使用する基準度に実施用混合物の地使用施が1,00回番からいは使用する基準を開発します。 カイル機工 手 一手	
			土の粒度試験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照 表-3.2.8 路上再生路盤用素材の望ましい粒度範囲 による	当初及び材料の変化時		
			土の含水比試験 土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1203	設計図書による。 塑性指数PI:9以下			
		その他	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 2010 (ポルトランドセメント) IJS R 2011 (高炉セメント) JIS R 3212 (シリカセメント) JIS R 3213 (フライアッシュセメント) JIS R 3214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
			ポルトランドセメントの化学 分析	JIS R 5202				0
			观播密度の測定	議抜調査・試験法便覧(4) - 200 - 200	X3 96. 5%ELL	・範囲が度は、個々の測定値が基準密度の83%以上を簡単でうちのとし、かつ平均値につかて以下 した個単でうちのとし、かつ平均値につかて以下 ・範囲が度は、10円の影性像の平台域にから販格値 を観えするものとする。また、10円の影性像が発 を対していまうた。10円の影性像で発動が実施を を対していまうた。10円の影性像では、10円の影性が手 がよりまったり3、00回を超える場合は、10,00回 は大を1ロットとし、1ロットあたり10元で影かさ も、11工事かた93、00回が前に10円、適かで 10、00回が上の場合、10、00回がに10円、連 形式に12、00回が高さ、60回が10コット向に いたは、11工事かた93、00回が以下の場合(総持工 率を除く)は、1工事かた93、2以上で制定する。		

			ı		品質管理基準及び規格値				
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格值	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認	
33 路上再生路盤工	施工	必須	上の一軸圧縮試験 CAEの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 133 舗装調査・試験法便覧 [4] - 135	設計図書による。	当初及び材料の変化等	Oko一軸圧縮試験とは、第上再生アスファルト乳剤 安定処理剤整材料の一軸圧縮試験を指す。		
			含水比試験	JIS A 1203		1~2回/日			
34 路上表層再生工	材料	多	旧アスファルト針入度	JIS K 2207		当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用 できる場合にはそれらを用いてもよい。		
			旧アスファルトの軟化点 既設表層混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -					
			既設表層混合物の最大比重試 験	218 舗装調査・試験法便覧 [4] - 309					
			既設表層混合物のアスファル ト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 318					
			既設表層混合物のふるい分け 試験	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16					
			新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	同左			0	
	施工	必須	吳場密度の衛定	編装調查· 以除 法便覧 [3] — 218	基等电流 (2008以上 100 99%以上 100 99%以上 100 99%以上 100 99%以上	時間の支は、様々の測性を外基率高度の約3.以上を発を下さら、かっ平均値について以下 を満またものとする。 ・規則の支は、10円の測性値の平均値にのが振幅を を満まするものとする。また、10円の測性値が手板 を満まするものとする。また、10円の測性値が手板 を対していませる。また、10円の測性値が手板 とように3.00円を一を分割、235円板値が手板 を満ましていまけまい。 11工事かたり、0.00円を超える場合は、10、000円 いまを10円の一を10円、10円、10円、10円、10円、10円、10円、10円、10円、10円、	空原本による管理でもよい。		
				温度測定	温度計による	Hock F	随中	調定額の配録は、1B4回(午前・午後各2回)	
					かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」 付録-8に準じる	-0.7cm以内	1,000 at 65	
		その他	粒度 (2.36mmふるい)	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16	2.36mmふるい: ±12%以内	適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。		
			粒度 (75μmふるい)	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16	75 μ m.5・3 い・: ±5%以内				
			アスファルト量抽出粒度分析 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 318	アスファルト量: ±0.9%以内				
35 排水性舖装工·透水性 舖装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「舗装施工便覧」3-3-2(3)による。		・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理 が可能な工事といい。 舗装施工商機が10,000㎡あるい は使用する基準の代機制用造物の総使用量が3,000㎡あるい 以上の場合が終当する。 小小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模 の工事といい。同一工程の施工が執日連続する場合 で、以下のいずれが、選挙するものをいう。 ①施工商程で1,000㎡以上10,000㎡が高 使用する基準の光線用量が500以	0	
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	砕石・王砕、製鋼スラグ (SS) 麦乾比重: 2. 45以上 吸水率 : 3. 0%以下		上、3,000 未満(コンクリートでは400㎡以上,1,000 市未満)。 ただし、以下に該当するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装:同一配合の合材が100t以上のも の	0	
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土、粘土塊量:0.25%以下			0	
			租骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] - 45	網長、あるいは偏平な石片:10%以下			0	
			フィラー (舗装用石灰石粉) の粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」3-3-2(4)による。			0	
(次頁に続く)			フィラー (舗装用石灰石粉) の水分試験	JIS A 5008	ISEX F			0	

			ı	1	品質管理基準及び規格値	T	Ī	
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認
55 排水性加装工。透水性 加装工	材料	その他	フィラーの塑性指数試験 フィラーのフロー試験	JIS A 1205	462 F	・中国際以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規収入りの工事とは、予測的を指いた」での参照 が可能と工事とい、創業施工工業的が1,000㎡ある)、 は使用する基限及び実施用混合物の地使用能が3,000 より、力が現在工事に管理結果を施工工業員に反映できる規模 で、以下のいすかに選出する人を加工工業員に反映できる規模 で、以下のいすかに選出する人のをいう。 の施工工業間で1,000㎡以上10,000㎡末満 受権用する基度が実施用混合物で使用量が500以 上、3,000 末満(コンクリートでは400㎡以上1,000 本本規)。下に該出するものについても小規模工事と して取り扱うものとする。 のアスファルト舗装:同一配合の合材が100以上のものの のの、2000年に対していていていていていない。 のの、2000年に対していていていていていていている。 のの、2000年に対していていていていていていていている。 のの、2000年に対していていていていていていていている。 のの、2000年に対していていていていていていていていている。 のの、2000年に対していていていていていていていていていていていていていていていた。 のの、2000年に対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい	0
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	83 舗装調査・試験法便覧 [2] -	水浸膨脹比: 2.0%以下			0
			租骨材のすりへり試験	94 JIS A 1121	砕石・玉砕、製銅スラグ (SS) :30%以下			0
			硫酸ナトリウムによる骨材の	JIS A 1122	損失量:12%以下			0
			安定性試験					0
			針入度試験	JIS K 2207	40(1/10mm) 以上			0
			硫化 Δ萨 教	J15 & 2207	SOL OT SELE	- 中規模以上の工事: 施工前、材料変更時 ・小規模以下の工事: 施工前	・中規模以上の工事とは、管理部を描いた上での管理が示する。 が可能と工事といい、翻接施工面部が1,000㎡ある)、 は使用する基準度で接触用度合物の接使用施25,000 ・ハル模工工事を開発した。 ・小規模工工事に対象を指する。 の工事といい、同一工程の施工が数目接触する場合 で、以下のいけれたが直接するものをいう。 の施工網帯で1,000㎡以上10,000㎡が開 に、3,000 未満(ロン) 一トでは400㎡以上1,000 の末期により、100㎡が開発しませませませます。 して取り扱うものとする。 して取り扱うものとする。 107 エファルト翻接: 同一配合の合材が100以上のも 107 エファルト翻接: 同一配合の合材が100以上のも 107 エファルト翻接: 同一配合の合材が100以上のも	0
			伸度試験	JIS K 2207	50cm以上 (15°C)			0
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	260℃以上			0
			薄膜加熱質量変化率	JIS K 2207	0.6%以下			0
			薄膜加熱針入度残留率	JIS K 2207	65%DLL			0
			タフネス・テナシティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2] - 289	タフネス:20N・m			0
			密度試験	JIS K 2207				0
	プラント	必須	花度 (2.36mmふるい)	語族語於,試験法接覧 [2] 16	2.36mmからい:土1次以内基準投疫	・中級展以上の工事、定期庁を上述時、 ・小板展以下の工事、異常が認められたき。 田字記録の場合:金数または抽出・ふるい分け試 数 1~2m2/日	・中規収入少工事とは、予機配を指いた」での管理 が可能と工事とい、創業施工工館が1,00 cm/a から、 は使用する基限区が表別用混合物の地使用能が2,000 は使用する基限とが表別工程に反応できる機能の ので概念工事に増一工程の施工が取る速度である場合で の、以下のいすかに変掛するものをいう。 (3施工工程では、000㎡以上は、000㎡未満 のに表別に対して表別である。 に対して、1,100㎡以上は、000㎡未満 により、200㎡、1,100㎡以上は、000㎡、1,100㎡以上は、000㎡、1,100㎡、	0
			粒度 (75μmふるい)	16	75μmふるい: ±5%以内基準粒度	・甲現根以上の工事: 定期的または趙晔。 ・小規模以下の工事: 異常が認められたとき。 日宇記録の場合:全数または抽出・ふるい分け試 験 1~2回/日		0
			アスファルト量抽出粒度分析 試験	舗装調査・試験法便覧 [4] - 318	アスファルト量: ±0.9%以内			0
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	配合設計で決定した混合温度。	陸		0
		その他	水浸ホイールトラッキング試験	65	設計図書による。	設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認 マスファルト混合物の耐労動性の確認	0
			ホイールトラッキング試験	請装調查・試験法便覧 [3] - 44 舗装調査・試験法便覧 [3] -			アスファルト混合物の耐流動性の確認 アスファルト混合物の耐薬料性の確認	0
			カンタブロ試験	18			アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	0
	論	W.	温度測定(初転圧前)	温度計による		和中	測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	0
	段 現 場	31(現場透水試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -	X ₁₀ 1,000mL/15sec氏上	1,000㎡ごと。		
(次頁に続く)				154	X10 300mL/15sec以上 (步道箇所)			

					品質管理基準及び規格値			試験成績
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験規模 表等によ る確認
35 排水性肺炎工・透水性 肺炎工	請設現場	必須	攻勝密度の測定	語狹頭查·砂糖法經覧 [2] —— 224	基準度度が84以上 100 96以上 180 96以上 309 66以上 労遣動所:設計図書による	・両面が及は、様々の測定値が基準密度でか坏以上を過程するものとする。 を過程するものとする。 を適性するものとする。 を適性するものとする。また、10月の間で値が帯 を適性するものとする。また、10月の間で値が帯 は、さらに3月のゲータを加えた平均値3か3場格値 は、さらに3月のゲータを加えた平均値3が3場格値 は、さらに3月のゲータを加えた平均値3が3場格値 は、11工事かた93、00miを超るる場合は、10,00mi は、11工事かに93、00miを超るる場合は、10,00mi は、11工事がより3、00miを超るる場合は、10,00mi は、11工事がより3、00miを超るの場合は10円。 は、11工事がより3、00mi は、11工事がより3、00mi なは、11工事かた93、00mi なは、11工事かた93、00mi なは、11工事かた93、00mi を確かしませ、11工事がより3月以上で側をする。		
			外観検査 (混合物)	目視		随時		
	**		T () N & 6	Abditional about the set To 5		Series Address Manager and Language		
36 プラント再生舗装工	材料	額	再生骨材 アスファルト抽出後の骨材粒 度	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16		再生骨材使用量500 t ごとに1回。		0
			再生骨材 旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法便覧 [4] - 318	3.8%以上			
								0
			再生骨材 旧アスファルト針入度	マーシャル安定度試験による 再生骨材の旧アスファルト性 状判定方法	20(1/10mm)ELE (25°C)	再生混合物製造日ごとに1回。 1日の再生育材使用量が300 t を超える場合は2 回。 1日の再生育材使用量が100 t 未満の場合は、再生 膏材を使用しない日を除いて2日に1回とする。		0
			再生骨材 洗い試験で失われる量	論装再生便覧	5%&F	再生骨材使用量500 t ごとに1回。	売い試験で失われる量とは、試料のアスファルトコン クリート再生骨材の未完的の75.maからいにとざまる のと、未成数の75.maからいととどもものを気能 もしくは60で以下の炉配像し、その質量の整からもと かる。	0
	プ 必 ラ 領	再生アスファルト混合物	JIS K 2207	JIS K 2207石油アスファルト規格	2回以上及び材料の変化		0	
	プラント		粒度(2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] - 16	2.36mmふるい: ±12%以内 所アス処理の場合、2.36mm: ±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5に よる。	抽出ふるい分け試験の場合:1~2回/日 ・中規模以上の工事:定期的または随時。 ・小規模以下工事:異常が認められるとき。 印字記録の場合:全数		0
			粒度(75μmフルイ)		75μmふるい: 土部以内 再アス処理の場合、75μm: 土部以内 田宇記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5に よる。			0
			再生アスファルト量	舗装調査・試験法便覧[4]- 318	アスファルト量:±0.9%以内 再次規理の場合、アスファルト量:±1.2%以内 用字記録による場合は、舗装再生便覧表-2.9.5に よる。			0
		その	水浸ホイールトラッキング試 験	舗装調査・試験法便覧 [3] - 65	設計図書による。	同左	耐水性の確認	
		他						0
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] - 44			耐流動性の確認	0
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -			耐磨耗性の確認	
				18				0
	舗 設 現	必須	外観検査 (混合物)	目視		随時		
	場		温度測定(初転圧前)	温度計による			測定値の記録は、1日4回 (午前・午後各2回)	
			直线例是 (初報(工則)	値及訂により			例た題の記録は、1日4四(平例・平安社2四)	
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] - 218	基準密度の94%以上。 X10 96%以上	・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以 上(再アス処理の場合は基準密度の93%以上)を		
					X6 96%以上 X3 96.5%以上 再アス処理の場合、基準密度の93%以上。	は (中子 へら思かの他) に最初後でからかした) を まするものとする。		

工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	品質管理基準及び規格値 ^{規格値}	試験基準	摘 要	試験 表等
工場製作工(銅橋用銀		2 31	外観・規格 (主部材)	現場照合、帳票確認		現場とミルシートの整合性が確認できること。 規格、品質がミルシートで確認できること。		중점
			機械試験(JISマーク表示品以	TTO:- > Z	IISIC# 5	IISIC & &	試験対象とする材料は監督員と協議のうえ選定する。	
			外かつミルシート照合不可な 主部材)	1101-4-9	11010 4.0	712(C % A)	PORAT まとりも行われた自身と前域ペノス地だりも。	
			外観検査 (付属部材)	目視及び計測				
ガス切断工	施工	必須	表面粗さ	目視	主要部材の最大表面粗さ 50μm以下 二次部 材の最大表面粗さ 100μm以下 (ただし、切削に		最大表面粗さとは、JIS B 0601 (2013) に規定する最 大高さ粗さRZとする。	k
					よる場合は50μm以下)			
			ノッチ深さ	目視計測	主要部材:ノッチがあってはならない 二次部材:1mm以下		ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示 す。	
				T. MI	Multi-			
			スラグ	目視	塊状のスラグが点在し、付着しているが、痕跡を 残さず容易にはく離するもの。			
			上縁の溶け		わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のも			-
					\mathcal{O}_{\diamond}			
		その	平面度	目視	設計図書による(日本溶接協会規格「ガス切断面 の品質基準」に基づく)			-
		他						
			ベベル精度	計測器による計測]			
			真直度					
溶接工	施	W.	引張試験:開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。	試験片の形状: JIS Z 3121 1号	溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」	
	I	額				試験片の個数:2	Ⅱ銅橋・銅部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先 溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施	
							工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時 の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略す	*
							ることができる。	
			型曲げ試験 (19mm未満裏曲	JIS Z 3122	亀裂が生じてはならない。	試験片の形状: JIS Z 3122		_
			げ) (19mm以上側曲げ): 開 先溶接		ただし、	試験片の個数:2		
					TO A CONTRACT TO			
			衝撃試験:開先溶接	JIS Z 2242	溶接金属及び溶接熱影響部で母材の要求値以上	試験片の形状: JIS Z 2242 Vノッチ	-	
					(それぞれの3個の平均値)。	試験片の採取位置:「日本道路協会道路橋示方書・同解説」II 銅橋・銅部材編20.8.4溶接施工法図-20.8.2衝撃試験片		
						試験片の個数:各部位につき3		
			マクロ試験:開先溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があってはならない。	試験片の個数:1	-	
			非破壞試験:開先溶接	「日本道路協会道路橋示方	同左	試験片の個数:試験片継手全長	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」	-
				書・同解説」Ⅱ銅橋・銅部材 編 20.8.6外部きず検査 20.8.7内部きず検査の規定に			Ⅱ銅橋・銅部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.1開先 溶接試験溶接方法による。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施	E
				よる			工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略す	-
							ることができる。 (非破壊試験を行う者の資格) ・磁粉採傷試験または浸透採傷試験を行う者は、それ	ı
							ぞれの試験の種類に対応したJIS 2 2305 (非破壊試験 - 技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上の	
							資格を有していなければならない。 ・放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験にお けるレベル2以上の資格とする。	
							・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験 におけるレベル3の資格とする。・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波	8
							手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波 探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。	4
			マクロ試験:すみ肉溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があってはならない。	試験片の形状:「日本道路協会道路橋示方書・同	・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」	1
			2.			解説」Ⅱ銅橋・銅部材編20.8.4溶接施工法 図- 20.8.3寸み肉溶接試験 (マクロ試験) 溶接方法及	Ⅱ銅橋・銅部材編20.8.4溶接施工法 図-20.8.3すみ 加密接対験(-スクロ対験) 容接大法及び財験との取出	è
						び試験片の形状 試験片の個数:1	いまる。 ・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を名の話	E
							の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。	
(に続く)								

		1		1	品質管理基準及び規格値		ī	****	
工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認	
39 溶接工	施工	必須	引張試験:スタッド溶接	JIS Z 2241	時伏点は、235V/m2以上、引振焼さは、400~ 550N/m2、伸びは20%以上とする。ただし溶接で 切れてはいけない。	延験片の形状: JIS B 1198 映験片の個数: 3	過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を 行い、かつ施工経験をもの工場では、その時の試験報 労害によって判断し溶接施工試験を省略することがで きる。	0	
			曲げ試験:スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状: JIS 2 3145 試験片の個数: 3		0	
				突きな部級番手の内部欠陥に 対する検査	JIS Z 3104 JIS Z 3060	「環で協議されたまず中語は、設計上等等される 対接以下ではればならかい。 ただし、寸落によらす疾師に関ロした創れ等の面 まきずはかってはなかない。 なお、数分構造透影響により場合において、板原 ・引数な力を受ける溶検部は、JR2 2 3104円減齢は (通過写真によるすり像の分類方法)に示する 以上とする。 で通過方はこるすりの像の分類方法)に示する 以上とする。 では、対したが、対したが、対したが、対したが、対したが、対したとする。 ではある事によるすり像の分類方法)に示する頭 以上とする。 ではある事によるすり像の分類方法)に示する頭 以上とする。 ではある事によるすりの像の分類方法)に示する頭 以上とする。 なお、収算が25mmを超える場合は、内臓とず中が、 が考えられる経過ぎでは、対で、変更の影響 が考えられる経過ぎでは、対したとい。 が考えられる経過ぎでは、対している。 かずみにも関する。 かずみためたる様子では、対して、変更の影響 かするからので注意する。	総計権高級機の場合にIIS Z 304による。 組合設備保険機(手技傷)の場合はIIS Z 3060に よる。	日本道路協会連絡権の方書・四解説、1期間・加 新経園 美報20.8名で美報20.7年代を書からま 等級を他たす上での内部をすずおから存储が示されて いる。たお、美術製、8.6名で活動で20.8 にてきたして いない地域等級を構成させた場合などの第年の内部を 利取し、即額、卵形材面 5.3億千の通販等の情報を が表し、1986、日本直接後の連携等で方面を などいません。日本直接後の連携等である などいません。 「年後期後の単位とは、大学を などいません。 「中では、1986」が他がは、1986 大学の地域を は、1986 大学のは は、1986 大学の は	
			外観検査(割れ)	- 目視	あってはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目現検査する。目現は全球表現する。ただし、判定が困難な場合は、最初探傷実験または浸透液探傷実験を 別いる。	銀形探傷区験または浸透探傷区験を行う者は、それぞ れの影響の種類に対応したJISZ 2305 (非破膜影響) 技術者の資格及び認知) に規定するレベル2以上の資 格を有していなければならない。		
			外観形状検査(ビード表面の	・目視及びノギス	断而に考慮する突合せ溶締継手 十字溶接継手	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認	,		
			ES P	等による計測	新面に多慮する契合は溶接線手、十字溶接線手、 溶接線手、内容線線手には、ピード表面にピット トがあってはならない。その他のする内容接及な はないました。 は銀手投き、出版につきる単立でお客する。ただ し、ピットの大きさが1mは下の場合は、3個を 1個として計算するものとする。	により味わしい個所を例定する。目拠は金延長実施する。			
			外観形状検査 (ビード表面の 凹凸)	-	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm 以下。				
			外観形状検査 (アンダーカット)		「日本道路協会道路協売方書・同解釈」 日興館・ 期部材編 20. 3. 6外部さず検査の規定による。		1日本道路協会道路議会方書・同核院 1 回補 ・		
			外観検査(オーバーラップ)	・目視	あってはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視検査 する。			
			外観形状検査(すみ肉溶接サ	目視及びノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ肉サ イズ及びのど厚を下回ってはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認 により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実			
			4×)	寺による計測	イス及びのど母を「四つくほどらない。 だだし、1 溶接機の両端各の配合体(部分では、 溶接後をの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚 ともに-1.0mの製造を認める。	により飲むしい個所を測定する。 目他は至地疾来 施する。			
			外観形状検査 (余盛高さ)		設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない関先溶接は、 以下に示す範囲内の余盛りは仕上げなくてよい。 余盛高さが以下に示す値を超える場合は、ビード 形状、特に止縮部を滑らかに仕上げるものとす る。				
					編(B(sm))余鑑高さ(h(sm)) B<15 : h≦3 15≦B<25 : h≤4 25≤B : h≤ (4/25) · B				
			外観形状検査 (アークスタッド)		・金盛り形状の不整:金盛りは全周にわたり包囲 している合計はだらない。なお、金盤りは高さ ・一部は及びチンや遊込か、あってはならない。 ・アンダーカット・鋭い切欠状のアンダーカット があってはたらない。ただ、クラインダー仕上 け富がら、5ma以内に前まるものは仕上げて合格と ・スタッドンへの仕上り高さ: (設計値±2mm) と超えてはならない。				
		そ の 他	ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	割れ等の欠陥を生じないものを合格。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベル について全数 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から 1%について技取り曲げ検査を行なうものとす	・余盛が包囲していないスタッドジベルは、その方向 と反対の15°の角度まで曲げるものとする。 ・15°曲げても欠陥の生じないものは、元に戻すこと なく、曲げたままにしておくものとする。		
						5.			

	1				品質管理基準及び規格値 I	Г		8+80 rt 68	
工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成績 表等によ る確認	
40 中層混合処理 ※全面改良の場合に適用。 派合処理改良体 (コラム) を遊成する工法には適用しない	材料	必須	土の含水比試験 上の湿潤密度試験	JIS A 1203	設計図書による。	等初及び士質の変化した時。	配合を定めるための試験である。		
			テーブルフロー試験	JIS R 5201					
			土の一軸圧縮試験 (改良体の強度)	JIS A 1216					
		÷.	土粒子の密度試験	JIS A 1202	設計図書による。	土質の変化したとき必要に応じて実施する。			
		他	土の粒度試験	JIS A 1204					
				JIS A 1205					
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216					
			土の圧密試験	JIS A 1217					
			土懸濁液のpli試験	JGS 0211		有機質土の場合は必要に応じて実施する。			
		Z 11	土の強烈政業試験 168 0221						
	施工	Ø M	深度方向の品質嫌談 (お)質性)	欧村採収器または ポーリングコアの目視確認	採取した飲料のフェノールフタレイン反応試験に よる物質性の目視痛認	1,00m3ペー,00m3につき1回の発やで行う。 放け料板器をはボーリングコアで観念された改 食体上、中、下において運搬されて改食されてい ることをフェノールフタレイン反応契線により均 質性を日理施設する。 現場の条件、現販等により上記によりがたい場合 は監督員の指示による。	4. 実施規度は、監督員との協照による。 2. ポーリング等により供試体を採取する。		
				土の一軸圧縮試験 (改良体の独度)	JIS A 1216	①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ジョ回の試験結果は改良地盤設計速度以上。 なお、1回の対験は果は改良地盤設計速度以上。 なお、1回の対験とは3個の供試体の試験値の平均 値で表したもの。	1,000a5~4,000a3につき1回の報合で行う。 鉄敏社改作体について上、中、下それぞれ1供試体 で回とする。 現場の条件、現職等により上配によりがたい場合 は監督員の指示による。	実施頻度は、整督員との協議による。	
41. 鉄筋挿入工	材料	必須	品質検査 (芯材・ナット・プレート 等)	ミルシート	設計図書による。	材料入荷時		0	
			定着材のフロー値試験	JSCE-F521-2018		無工開始前1回および定額材の材料や配合変更時に 実施。1回の試験は測定を2回行い、測定値の平均 をフロー値とする。	定着材をセメントミルクまたはモルタルとする場合		
			外観検査 (芯材・ナット・ ブレート等)	- 目視 - 寸法計測	設計図書による。	材料入價時			
	抱	公原	圧縮強度試験 引き抜き試験	JIS A 1108 地山補強土法設計・施工マ	設計図書による。 設計図書による。	施工開始前1回および施工日ごと1回 (3本/回) - 施工全数量の3%かつ3本以上を標準とする。	定着材をセメントミルクまたはモ ルタルとする場合		
	行	须	(受入れ試験)	ニュアル 地山補強土法設計・施工マ	設計図書による。	 ・ 載荷サイクルは1サイクルとする。 ・ 地層ごとに3本以上を標準とする。 			
		他	適合性試験 (適合性試験)	= 17N		・観音サイクルは多サイクルを原則とする。 ・初期荷重は。5.0k/kbしくは計画最大荷重の0.1 倍程度とする。			

工種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用鉄筋コンクリート管)	必須	外観 形状・寸法(カラー及 びゴム輪を含む) 外圧強さ 水密性	目視による JSWAS A-1 による	「外観検査」 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目 とび判定基準は次のとおり。 検査項目 管融方向のひび 管の長さ方向で管長の1/4以上)にとっただし、管長の1/4以上)におたるひび割れがないこと。ただし、管長の1/4以上であっても管長の1/4以上であっても管長の1/4以上であっても管長の1/4以上であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であっても管板が上に発生がしていると、表面上に発生するひり、記事に発生するひり、記事に発生するひり割れがをも含むのを指す割れは差し支えない。 管周方向のひび 管周の方向で、管周の1/10以上にわたるひび割れがないこと。 管端面の欠損 管端面の平面積の3%以上が欠損していないこと。ただし、シールはに係る部分について欠損はないこと。			0
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 偏平試験 位正試験 耐薬品性試験 ビカット軟化温度試験	目視による JSWAS K-1 による	(外観検査) (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 有害な傷 管の強き、水密性及び耐久性に悪影響を促す(傷があってはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない) 滑らかさ 明らかな凹凸がないこと。 割れ 割れがないこと。			0
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用リブ付硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 偏平試験 費圧試験 でカット軟化温度試験	目視による JSWAS K-13 による	「外観検査」 (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2)検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 有害な傷 管の強さ、本密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があってはならない。(かすり)傷程度のものは差し支えない)			0

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等 による確認
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用強化プラスチック複合管)	必須	外觀·形状 寸法 外圧試験 耐薬品性試験 耐酸試験 水密試験	目視による Jswas K-2 による	「外観検査」 (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2)検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 有害な傷 管の強さ、水密性及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があってはならない。 滞らかさ 明らかな凹凸がないこと。 管の断面形状 管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。	(1)外観・形状検査は、全数について 行う。 (2)寸法、外圧試験、耐薬品性試験、 耐酸試験及び水密試験は、日本下水道 協会発行の「検査証明書」の写しによ る。		0
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用ポリエチレン管)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 偏平試験 偏平(長) 病薬品性試験 環境応力き裂試験 熟問内圧クリープ試験 だーリング試験 禁密を定性試験 熱等を変化試験 対候性試験	目視による JSWAS K-14 による	(外観検査) (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2)検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 管の強さ、水溶性及び耐外性に悪影響を及ぼす傷があってはならない。 潜らかさ 明らかな凹凸がないこと。 割れ 割れがないこと。 割れ 蓄しいねじれがないこと。 管の断面形状 管の断面に、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。 実用上の真っす 実用上、真っすぐであること。			0
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用レジンコンクリート管)	必須	外観・形状 寸法(カラーを含む) 外圧試験 水密性試験 耐酸性試験 吸水性試験	目視による JSWAS K-11 による	(外観検査) (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 ((管種の確認を行う) (2) 検査項目 及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 管軸方向のひび 管の長さ方向で管長の1/4以下であっても管長の1/10程度のひび割れがないことを見の1/10程度のひび割れがないことに、管長の1/10程度のひび割れがないとであり、にからない。ことに発生するひび割れをも含むを指するいび割れをも含むを指するより、変面上に発生するひび割れに変をであり、についてのあり、といいの甲状のひび割れがない。 管備方向のひび割れに発生するので割れがない。とと、管機の方向で、管間があるの甲状のひび割れがない。 管備方向のひび割れがない。といいので割れがないこと。			0
管布設工 (開削)	管きょ材料 下水道用ボックスカルバート)	必須	外観 形状・寸法 コンクリートの圧縮 強度 曲げ強度試験 接合部の水密性試験	目視による JSWAS K-12, JSWAS K-13 によ る	上 (外観検査 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目 及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 でが割れ 強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷やひび割れのないこと 場合がない、仕上げ面が確度に凹凸になっていないこと。内面が平でであり、水の流れに対して等あり、水の流れに対してきて、用上支障のない常らかさであること。 端面の矢損 端面の表面積の3%以上が欠損していないこと。 大損していないこと。 2、3.55			0

工種	種別	試験 区分		試験項目	試験方法			規格値	試験基準	摘要	試験成績表等 による確認
			原管内装		JSWAS G-1 による				(1)外観検査は全数について行う。 (2)形状・寸法及び引張試験、硬さ試験、水圧試験については、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。		
管布設工 開削)	管きょ材料 下水道用ダクタイル鋳鉄管)	必須	外装	外観 形状・寸法 引張試験 硬さ試験	目視による JSWAS G-1 による	(1) ある(2) 杉 原管 完 成 管 外	こと。 資査項目 及 項目 及 項目 及 項目 及 項目 及 項目 及 項 項目 の の の の の の の の の の の の の の の の の	協会「認定標章」の表示が くは、同等以上の材料とす び判定基準は次のとおり。 判定基準 クラックがないこと。 湯境がないこと。 善直しの範囲を超えるもの は不可とする。 有害なひび割れがないこと。 管の受け口内面にモモルタル が付着していないこと。 表面に実用的に潜らかであること。 異物の混入塗りむらなどが なく、均一な塗膜であること。	(1)外観検査は全数について行う。		0
管布設工 開削)	管きょ材料 鋼管)	必須	形状・成分・	寸法 機械的性質 又は水圧	日本下水道協会 下水道用資器材 I 類 水道定はる JIS G 3443	(1) ある。 (2) * 「原管	田本と 査 項 用	協会「認定標章」の表示がくは、同等以上の材料とす (で判定基準は次のとおり。 ・ 判定基準 実用的に真っ直でであること。 ・ 実用的に両端面は管軸に対して直角であること。 はなはだしい接合部の層溶接い、アンダーカット、こと。 ・ 調面が平滑に仕上がっていること。 「で、有害なふくれ、部と、大変、したい、スカッし、したい、スカッし、こと、表別、などがないこと。	(2)形状・寸法、成分・機械的性質等 は、日本下水道協会発行の「検査証明 書」の写しによる。		0
管推進工	管きょ材料 下水道推進工法用鉄筋コンクリート管)	必須	含む) 外圧強	一及びゴム輪 さ リートの圧縮	目視による JSWAS A-2 又はA-6 による	(1) ある (2) を軸れ 管割	こと。もし 検査項目及 検査項目 方向のひび	協会「認定標章」の表示がくは、同等以上の材料とす 「判定基準は次のとおり。 判定基準 管の長さ方向で電管長の1/4 以上(短管及び異形管の場合は1/3以上)にわたるひで割れがでした。ただし、管長の1/4以下であっても管長の1/4以下であってもでありない。ここで「縮していない」と、こで、は、乾燥な生するかい。は、乾燥な生するかり。。、かめの甲状のひび割れがを独生するかり。。、かめの甲状のひび割れに差を性のものを指す。あれた差しを他のものなびが割れば差にあるかい。 管周の方向で、管周の1/10以上にわたるひび割れがないこと。 管端面の平面積の3%以上が大損していないこと。 だし、シール材に係ることに、シールがに係ること。	(1)外観・形状検査は、全数について行う。 (2) 寸法、外圧強さ、コンクリートの 圧縮強度及び水密性は、日本下水道協 会発行の「検査証明書」の写しによ る。		0

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
管推進工	管きょ材料 下水道推進工法用硬質塩化ビニル管)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 偏平試験 負圧試験 耐薬品性試験 ビカット軟化温度試験	目視による JSWAS K-6 による	【外観検査】 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 管の強き、水密性及び耐久性に悪影響を戻す傷があってはならない。(かすり傷程度のものは差し支えない) 常らかさ 明らかな凹凸がないこと。 割れ 割れがないこと。 割れ 割れがないこと。 での断面形状 管の断面は、実用的に真円で、その両端面は管軸に対して直角でなければならない。 実用上の真っす 実用上、真っすぐであること。			0
管推進工	管きょ材料 下水道推進工法用レジンコンクリート管)	必須	外観・形状 ・ 一	目視による JSWAS K-12 による	[外観検査] (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (管種の確認を行う) (2) 検査項目 とび判定基準は次のとおり。 検査項目 常軸方向のひび 管の長さ方向で管長の1/4以上)にわたるひび割れがないこと。ただし、管長の1/40以上であっても管長の1/10程度のひび割れがない。ここで、ひび割れがは数あっておれとした、験便収縮に伴い、ごく表面上に発生するひび割れがをも含むもので指する。また、かめの甲状のひび割れは差し支えない。 管周方向のひび 関上にわたるひび割れがないこと。 管端面の欠損 管端面の平面積の3%以上が欠損していないこと。ただし、シール材に係る部分についての欠損はないこと。			0
管推進工	管きょ材料 下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管)	必須	原管 内装 外装 外観 形状・寸法	JSWAS G-2 による 目視による JSWAS G-2 による	(外観検査 (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目			0

					前具官理基準及び規格値	17,72=47		
工種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等 による確認
管推進工	管むよ材料 鋼管)	必須	外観 形状・寸法 成分・機械的性質 非破壊又は水圧 塗装	目視による 日本下水道協会 下水道路材 I 類 の規定による JIS G 3444	【外観検査】 (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 実用的に真っ直ぐであること。 「高端は管軸に対して直角 実用的に両端面は管軸に対して直角 になけだしい接合部の目違接でデングーカット、浴と。 住上げ良 類面が平滑に仕上がっていること。 性上げ良 類面が平滑に仕上がっていること。 企業及び 潜で、有害なふくれ、ペニスみ、しれ、たの混入などがないこと。	(1)外観検査は全数について行う。 (2)形状・寸法、成分・機械的性質等 は、日本下水道協会発行の「検査証明 書」の写しによる。		0
シール	系セグメント) 管きょ材料 ジールド工事用標準コンクリート	必須	外観及び形状・寸法 検査 水平仮組検査 性能検 単体曲げ試験 整手曲げ試験 ジャッキ推力 試験 つり手金具引 抜き試験	JSWAS A-4 による	(外観検査) (下: (1)日本下水道絡会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)有害なひび割れ、隅角部の破損等が無いこと。 「外観検査」(下水(1)有害なひび割れ、隅角部の破損等が無いこと。 (2)形状・寸法、水平仮組、性能に関する規格値は、JSWAS A-4 の規定による。	(1)外観検査は全数について行う。 (2)形状・寸法、水平仮組、性能についての検査は、日本下水道協会発行の「検査証明書」の写しによる。 道協会規格外)		0
Ня	ジト) 管きょ材料 ジールド工事用標準鋼製セグメ	必須	材料検査 形状・寸法及び外観 検査 溶接検査 水平仮組検査 性能検 ジャッキ推力 査 単体曲げ試験	JSWAS A-3 による	(外観検査) (下: (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)有害な曲がり、そり等が無いこと。	(1)外観検査は全数について行う。 (2)材料、形状・寸法、溶接、水平仮 組についての検査は、日本下水道協会 発行の「検査証明書」の写しによる。 (3)性能検査は設計図書の定めによ る。		0
マンホール設置工	管きょ材料 組立マンホール側塊)	必須	外観 形状・寸法 コンクリートの圧縮 強度試験 軸方向耐圧試験 接合部の水密性試験 側方曲げ試験	目視による JSWAS A-11による	(外観検査) (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 有害な傷 側塊は、強度や耐久性に悪影響を及ぼす傷がないこと。 滑らかさ 側塊には、粗骨材が突き出していなり、抜け出した跡がなく、仕上げ面が極度に凹凸になっていないこと。 端面の矢損 側塊の端面は、その面積の3%以上が欠損していないこと。 端面の形状 側塊の端面は平滑であり、側上支障のない直角であること。	(1)外観検査は全数について行う。 (2)形状・寸法、コンクリートの圧縮 強度試験、軸方向耐圧試験、接合部の 水密性試験及び側方曲げ試験は、日本 下水道協会発行の「検査証明書」の写 しによる。		0
	製マンホールふた)管きょ材料(下水道用鋳鉄	必須	外観・形状 寸法・構造 材質試験 荷重たわみ試験 耐荷重試験	目視による JSWAS G-4 による	【外観検査】 (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)有害なきずが無く、外観がよいこと。	(1)外観・形状検査は、全数について 行う。 (2) 寸法・構造、材質試験、荷重たわ み試験及び耐荷重試験は、日本下水道 協会発行の「検査証明書」の写しによ る。		0

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	加貝官垤委华及び放竹値 規格値	試験基準	摘要	試験成績表等 による確認
	管きょ材		外觀	目視による	【外観検査】 被覆材は有害なわれ、破損等が無いこと。	外観検査は全数について行う。		
	2料 マンホール足掛け金物)	必須	形状・寸法材質		品質を判定できる資料又は試験成績表を提 出する。	(1)芯材 JIS G 4303(SUS403) の規格に適合すること。		0
マンホール設置工	管きょ材料 下水道用塩化ビニル製小型マンホール)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 荷重試験 負圧試験 耐薬品性試験 ビカット軟化温度試験	目視による JSWAS K-9 による。 内ふたは、 JSWAS K-7、 防護 ふたは、 CSWAS G-3 による。	「外観検査」 (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)検査項目及び判定基準は次のとおり。 検査項目 判定基準 有害な傷 マンホールの強さ、水密性 及び耐久性に悪影響を及ぼす傷があってはならない。 (かすり傷程度のものは差し支えない) 潜らかさ 明らかな凹凸がないこと。 割れ 割れがないこと。			0
	管きょ材料 下水道用鋳鉄製防護ふた)	必須	外観・形状 寸法 荷重たわみ試験 耐荷重試験 材質試験	目視による JSWAS G-3 による	(外観検査) (1)日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2)有害なきずが無く、外観がよいこと。	(1)外観・形状検査は、全数について 行う。 (2)寸法、荷重たわみ試験、耐荷重試 験及び材質試験は、日本下水道協会発 行の「検査証明書」の写しによる。		0
ます設置工	管きょ材料 下水道用硬質塩化ビニル製ます)	必須	外観・形状 寸法 引張試験 荷重試験	目視による JSWAS K-7 による。 防護ふたは、 JSWAS G-3、 立上り部は、 JSWAS K-1 による。	(外観検査) (1) 日本下水道協会「認定標章」の表示があること。もしくは、同等以上の材料とする。 (2) 検査項目			0